

愛媛大学教育学部

第115号

同窓会報



愛媛大学教育学部同窓会事務局

☎ 790-8577 松山市文京町3番
愛媛大学教育学部総務係室内

☎ (089)927-9383(直通) FAX(089)927-8304

E-mail : dosokai@ed.ehime-u.ac.jp



ご挨拶



愛媛大学教育学部
同窓会会長
高橋 治郎

明けましておめでとうございます。本年も同窓会の活動・運営にご協力、ご支援よろしく申し上げます。各支部や同窓生からの同窓会活動のご提案をお待ちしています。また、同期会・同級会等の様々な情報や活動を同窓会にも提供していただき、同窓会としてもそれらを共有したいと考えています。

さらに、同窓生が地域の文化活動を牽引する、地域の文化財を発掘する、同窓生の絆を深める活動をおこなう等々に教育学部同窓会は全面的に支援・協力しますのでよろしく申し上げます。

さて、枕代わりに使用している「広辞苑（第六版）」（平成二十年発行）で「同窓」を引いてみますと、「同じ学校で、または同じ師について学んだこと」と、さらに「同窓会」は、「同じ学校の出身

者が集まった組織。また、その会合」と説明されています。それでは、古い（？）辞書である「言海」（明治二十二年発行）や「新編大言海」（昭和三十一年発行）にはどう説明されているかといますと、「同窓」を「言海」では「同居シテ学問スル友。同学」と、そして「新編 大言海」には「同窓ノ下ニ学ブ意」同じ学校、又ハ、師ニ就キテ学問スルコト。又、ソノ人。同居シテ学問スル友。同学」とあります。これらの辞書の説明は同じようなものなので、時代が変わっても「同窓」の意味合いは変わっていないと言ふことなのでしょう。もともと「言海」や「大言海」を作った大槻文彦先生と「広辞苑」を作った新村出先生の関係から言えば説明文が似通っているのは当然かもしれませぬが……。

とおりです。生徒や学生、院生として学校や学部、大学院に籍を置いていたときは、限られた同級生や先輩、後輩としか付き合いが無かったと思います。しかし、「同窓会」という組織は時空を越えたもので、私にとって本同窓会においては、歳が四十歳ほど先輩から四十歳年下の後輩が、日本はもとより世界各地で活躍されています。

一方、私たちにはそれぞれ恩師がいるわけで、同じ先生から学んだと言うことも同窓の重要な繋がり、絆と言うことができます。私も教育学部で大勢の先生に教えていただき、楽しい大学生活を送ることができました。教員になるために必要な教職関係科目から各教科、中でもピアノや裁縫、料理、習字、ダンス、水泳、絵画など実に様々なことが学べたことが卒業後、どれだけ役立っていることか……、教育学部には各分野の多才な先生がおられ、教育に当たってくれました。本当にすばらしい学窓でした。そして、卒業後も何かとご指導・ご鞭撻くださり、母校で大好きな「地学」教育を担当する一人に育てていただきました。

先生といえは、私が直接教えていただいたのではないのですが、愛媛県師範学校に「古谷碧」先生（教諭）というかたがいらっしゃいました。本同窓会常任幹事の菅田顕先生に平成八年八月発行の「愛媛県教育学部同窓会会員名簿

〈開校百二十年周年記念〉で調べていただくと、愛媛県師範学校の教員欄に「古屋碧」という名前だけのあることがわかりました。たぶん「古屋碧」は間違いで「古谷碧」が正しいと思います。その理由は、古谷碧先生が大正十三年に「愛媛県鉱物分布図」という図幅を出版されています。これには「愛媛県師範学校教諭 古谷碧」著とあります。「愛媛県鉱物分布図」は、愛媛県各地から産出する鉱物や鉱石を地域ごとに挙げ、地図上にその位置を示したものです。この「愛媛県鉱物分布図」は、教育学部の総務課日野ゆかりチームリーダーのお宅にあったもので、「こんなものがありました」と私に教えてくれたものです。「愛媛県鉱物分布図」が出てこなかったら古谷碧先生を知ることが無かったわけです。「古屋碧」ではなく「古谷碧」であることも……。

表紙 「遠望」 兵頭 一夫
題字 元愛大教育学部教授 菊川 國夫
「ご挨拶」 愛大教育学部同窓会会長 高橋 治郎 (1)
心 響…………… (2)
「あいさつ」の周辺 同窓会理事 石丸 淳 (3)
学部の今…………… (3)
理科教育研究室訪問 加藤 富子 (5)
「コミュニケーション能力の育成」 (6)
学内最近のニュース…………… (9)
・教育学部曲田清維教授のプロジェクトグループと八幡浜市が「二〇一二年WFMモダニズム賞」を受賞
・教育学部曲田教授のプロジェクトグループと八幡浜市がWFMによる授賞式に出席
・教育学部研究科学生が声楽コンクールで入賞しました
職場たより…………… (11)
「今までの生活をふり返って」 新居浜・金子小教諭 竹田 章紀
「Prats Hotel」 伊予・郡中小教諭 宮本 江美
「これまでを振り返って」 宇和島・畑地小教諭 兵頭 秀則
「教師経験」 今治・立花中教諭 山本 大介
「先生」年生 松山・三津浜中教諭 大野 裕子
子どもたちとの交流を深める 学生チャレンジャー
「あいある仲間」づくりを目指して 四回生 林 紀江 (17)(16)
文芸 俳句 句集「天使の住む里」より 木曾 聡
川柳 「生き様」 留學生 森貞 和雄
水墨画 「季節を描く」 上窪田美鶴

「あいさつ」の周辺

愛媛大学教育学部
同窓会理事

石丸 淳

変な発想だが、俳句に「―だなあ」という言葉をつけると、十七音という狭い世界のびやかに広がって、私の、この思いをどうぞ受け止めてくださいという挨拶を受けたような感じがする。

「外にも出よ触るるばかりに春の月」(中村汀女)の句は、「大きな明るい春の月だなあ。外に出いらっしやい」と主情を大胆に表現した句であるが、まさに弾むような呼びかけの「あいさつ」を受けたような感じがする。山本健吉氏が「一、俳句は滑稽なり、二、俳句は挨拶なり、三、俳句は即興なり」と述べている。確かに、その基底にあるものは「あいさつ」であり発見の驚きと喜びであるように思う。喜びを誰かに伝え共有したいという思いなのである。

「木の葉ふりやまずいそぐなそぐなよ」(加藤楸邨)も同系列であろうが、俳句が連句から始まっていることを思えば、どんな俳句も「あいさつ」の心を秘めているのであると思う。事物に触

れて思わず湧いた感慨を述懐する。その言葉がそのまま挨拶になり、さまざまな反応の挨拶となり帰ってくる。

「古池や蛙とびこむ水の音」の句も、古来さまざまな哲学的な緻密な解釈の世界を許してきているが、単純に「おや、蛙のとびこむ水の音がするなあ。樹木や枯れ草の倒れ込んで古びた池だなあ」と思いを凝らせば、わびしさがしぜんに生まれてくる。発見の驚きと感動も暖かく伝わってくる。あなたはどうか感じますかという、問いかけの「あいさつ」の心が伝わってくる。



「あいさつ」とは、「お早う」「お晩です」といった対時刻、「いただきます」「どうぞお先に」等のマナー「ありがとう」「すみません」「失礼」等のように生活のさまざま

まな場にある言葉である。広く言えば、あらゆる時候・事物・事柄に触れて起きた感興を語り合うところにおのずから生まれるものであるように思う。天候を、自然の変化を、身体健康を語り、社会・経済・時事を語るものである。「お早う」の真意は、「今朝のお体の状態はどうですか」であり、「今朝は快適で、気分もいいのですが、あなたはどうかですか」という「あいさつの心」がゆったりと入っているものなのである。俳句の連衆の間にあつたであろう深い理解と温かい思いがあるものなのである。

かつての日本の地域社会には、森の利用を共同で管理する「入り会い」やお金を融通し合う「頼母子講」があり、忙しい各種作業は助け合い協働作業をする「結い」などがあり、「あいさつの心」が日常に生きていた。「挨拶とは、自らを開き、相手にせまる」ことであるなどと言わなくてもよかつた。濃い人間関係と信頼の中で、短い「あいさつ」の言葉で深く温かい相互理解の世界が生まれていた。

今、日本も近代化とともに地域共同体は破壊され孤立社会となり、「あいさつ」はその豊かに内包していたものを喪失してしまつた。その上、見知らぬ他人で「あ

いさつ」を交わさなくなっている。その点、一足先に近代化し自立を進めた西欧社会では、孤立を埋めるものとして、日常の生活の中で「あいさつ」を実に大事にしているようである。他人と肩などが触れあうと、間髪いれず「ソリー」と言い、「グッドデイ」「プリーズ」と言葉を出すらしい。いやいや、ちょっとしたことはそうだが、重大事はなかなか謝らないという人もいるが、孤立社会という見知らぬ人と人が生きる社会では、「あいさつの心」が大切であることを自覚しているのであると思う。

かつて日本の地域共同体が持っていた、また俳句の世界やお茶の世界に今も生きている、「あいさつ」の豊かな情の世界を回復し幸せな生活をおくりたいと思う。「あいさつ」は、固い骨と骨を結ぶ軟骨のようなクッション言葉である。「あいさつ」の言葉を大事に豊かにするとともに、「こんにちは」「今晚は」の後に、短くていい、「もう一言」付け加えるようにしたいと思う。その短い「もう一言」に事物に触れ発見した驚きと喜びをこめたいと思うのである。さりげない「もう一言」がくつと人を近づけ、暖かいもので人と人をやわらかく包むであろうと思う。

先輩を偲ぶ……………(19)
林傳次先生遺稿集「把翠」を繙く(19)
埋骨注心血地……………(20)
今、教育に思うこと……………(22)
「戦時中の通知票に思う」小野植元幸
「愛媛大学教育学部と教育実践現場と連携・交流を深めるために学部は」
グアテマラ通信(三)……………(23)
ICAシニア海外ボランティア
前愛媛大学教授 杉山 允宏
表紙作品「遠望」について……………(24)
兵頭 一夫
「第十三回愛媛大学教育学部
同窓会懇親会」報告……………(25)
同窓会理事 替地 和人
学部トピックス……………(27)
教育学部研究科学生がEASE学会で
最優秀賞を受賞しました
教育学部研究科学生が音楽コンクール
で入賞しました
フリーアナウンサーの合田みゆきさんによる「魅力的な話し方講座」を開催しました
「愛媛大学ミュージアム」を
見学してみませんか……………(29)
同期会……………(29)
「木の中に仏を求めて」〜昭王会
関東支部の集いから〜 伊藤
叙勲・受賞……………(30)
会員の声……………(31)
会誌「しまなみ」発刊にあたって
支部だより……………(31)
武田 敏文
落語文化の普及を図る……………(33)
南宇和支部長 若田
寄贈図書……………(33)
重見 法樹
「日本人の顔」……………(33)
武田 敏文
「しまなみ」……………(33)
同窓会への会報送料・寄付者名……………(34)
敬申……………(34)
原稿募集……………(34)
放送大学四月入学生募集……………(34)
「第三回愛媛大学ホームカミング
デイ」を開催しました……………(35)
※お詫びと訂正……………(35)

学部 の今

研究室訪問

理科教育研究室

向平和先生 今日



神無月十月に入り、やっと大学キャンパス内も秋らしい風情になってきた午前、向先生の研究室を訪ねた。

先日NHK松山放送局の朝のTV報道の中に、教育学部学生が先生、生徒に分かれ、実に楽しく「理科授業」を放映している光景が目に入り、その後、向先生がインタビューを受けている情景に釘付けになった。そこで、そのことから話に入った。



NHKで放映された授業風景について

理科教育講座では、愛媛大学全学部の学生向けのプログラムとして「理科観察実験体験プログラム」という、小学校教員希望の学生に対して、理科の授業を理科の観察・実験を中心に、指導や学習体験ができるようなプログラムを実施しています。その内容をNHKが取

り上げ取材し、それを放映してくださったものです。

今は、この「理科観察実験体験プログラム」は単位として認定はしていません。今、理科の指導が得意でない、苦手だという小学校の先生がいない、この話があるので、その対応と、今の学生についてもカリキュラムの点で内容が減っているところにも問題があります。現在在学している学生は、昨年度から小学校で全面実施されている新しい指導要領だと内容が増え

てしまっているもので、今まで、自分が経験したことのない内容を指導することになるので、それは教員にとって大変負担になります。そこで、それらを経験させておくと、昨年度から「理科観察実験体験プログラム」を実施しています。昨年度はアシスタントを理科教育専修・生活環境コースなどの理科を得意とする学生に担当してもらっていました。今年度からは、更に講師役としても理科を得意とする学生になって頂き、教材研究から直接関わるようになり、それを元に直接授業指導講師役にもなってもらっている様子が、NHKで取り上げて頂いたわけです。また、この講師役の学生には、理学部などの他学部の学生も関わっています。

子どもたちは今、理科離れといわれていますが、小学校の子どもたちにとっては、理科は魅力的な教科であることは間違いありません。唯、中学生になってくると、非常に系統立った授業になってきて、突然ボンと難しい概念が入って来たり、身近な生活との関連が薄れてくるため、理科が分からないうい、理科が増えるという報告もありません。そのため、理科の有用性、所謂「理科を学んで将来役に立つのか」「科学が関わる職業に関する情報」を教えていく必要があると思います。もともと、日本はそういう物作りとか、科学に関することが基幹産業になって、今日の日本を支えている部分があるので、本当はこのあたりに最も力を入れなければならぬと思うのです。今はそのあたりも指導内容が変わって重視されるようになってきたので、これからは科学が関わってきた基幹産業が又盛り返して行くのではないかと気がするのです。

とべ動物園との連携について

地域連携、社会教育施設の活用として「今」と「とべ動物園との連携」を強くしているのは何故なのか。今、とべ動物園で園内展示をしているものに、愛媛大学教育学部の学生が作成したものがあつたのです。それについては、私の授業内で作製させて、それを実際に園内の中で展示しているのです。何故そのようなことをしているのかと言え、今、社会教育施設の活用と言いますが、今回の指導要領でも謳われています、その小中高の教員が実際に動物園を活用することができるようになる教員養成の狙いがあります。勿論、知識的な面も重要ですが、特に、愛媛県の教員志望者は教育学部の学生に多いので、その場合、とべ動物園

との人的なネットワークを構築できればいいなと考えています。また、教育係の課長さんが非常に教育に理解がある方で、とてもよい交流ができています。又、動物園という、レクリエーションの場とイメージとして捉える人が多く、学びの場として捉えることが少ないのです。しかし、今、社会教育施設の活用と言われ、いろいろな動物園自体も生き残る為には、教育というものに力を入れなければならないのです。そのため、とべ動物園自体が非常に教育の面に力を入れてきています。その例としては、「動物の骨格標本」の貸し出しもされております。そのことを知らないことには、動物園のサービスを有効に活用することは出来ません。また、小学校の低学年の対象として「移動動物園」もあり、その要請も多く受けているようです。そういう生きた情報を学生に伝えるという意味あ

地域連携について

例えば、高校生が動物園に行く場合、幼稚園生が動物園に行く場合でも、実は何も指導してもらっていないと視点は一緒で「動物を見て唯単に可愛い」と思うに止まってしまうですね。ところが、例えば、動物の足に着目して見ていくと、「その動物の踵はどこの」と考えると、馬でもそうですし、カバでもそうですが、一般的に膝と考えると、ところが踵になるのです。後ろ足をよく見ると曲がる方向が前に曲がるのでその曲がり方を見ると、それがよく分かるのです。

このように一つの視点を与えてあげると、この様な学びの視点に繋がっていくのです。この様な見方、考え方を生かし動物園をいかに有効活用していくかということと動物園と連携しているのです。

高校、大学（農学部以外）では、理学的な内容を多く学びます。しかし、小学校の理科では生き物を飼育・栽培することが必要です。そこで、「育種」「農学」に関する内容というものが少ないので、動物園で話を聞いたり、動物園での活動によって、カバが出来る分野が広がっていく意味でも、今はいいことだと思えます。昨年動物園の展示教材として作製したものに「ウサギの歯」に関するものがあり、その中で「歯のつくり」というものは「歯式」といって歯の式というものがあつて、それによって、動物の分類の一つの特徴として捉えることができます。今、この教材づくりは、理科教育の授業の中で実施しているのですが、将来は他専修の学生に対しても開いてもいいのかもしれないと考えすぎるとそれも困難になってきますので、このあたりも今悩んでいるところなんです。

地域連携について

愛媛大学と地域社会との連携として、教育学部と今治市と連携協力協定を結んでおり、今治市の色々な研究授業や研修会などに参加しています。今治では、理科の好きな小中の児童・生徒に対して、Let's enjoy science と言われる科学教室を開いています。この科学教室は、地域の小学校、中学校の先生方によって、実施されています。できる限り多くの学生に現場の先生方が関わっている姿を見てもらうことと、そのがんばりによって児童・生徒が輝いているところを見てもらいたいと思います。学生を同行させています。愛媛大学で開いている「理科教育研修会」を月一回、土曜日に実施しています。理科教育専修の先生方がそれぞれの専門分野で教材作成や提供を行っています。しか

し、現場の先生は今大変忙しいので、なかなか参加しにくいのが現状です。なるべくいろんな先生方へ参加していただきたく、PR活動も積極的に行っていきたいと考えています。

愛媛大学附属小学校は、平成二十三年度ソニー子ども科学教育プログラム「最優秀校」として、表彰され、平成二十四年十月に全国大会を開催しました。附属学校園との連携も非常に重要だと考えております。

環境教育について

私は元々理科教育の中でも、生物が専門なので、環境教育の視点は重要と考えています。毎年、理科教育研修会の中は、米国内で開発されている環境教育プログラムのプロジェクトWILDやプロジェクトWILDの講習会を実施しています。

この米国で開発されたプログラムはワークシヨップ形式での講習を受けて認定を受けないと使えない、さらにテキストも市販されていません。これが結構使い勝手のいい教材なので、授業の中で講習会を実施する形にして学生達には提供しています。



蛙教具

学び方を学ぶ

ガチャガチャのフィギュアなどの玩具も教具として使えることがあります。カエルのフィギュアもちゃんと作られていて、見かけ上前足は四本の指しかない。前と後ろの足で、本数が違っているの

すね。子どもの頃、カエルを触っている学生はもちろんいるのですが、そこに気づいている学生はなかなかいないですね。

このことは、理科の授業でもよく使われます。「観察」というのは、ちゃんと視点を持って観察しないと見落としに気づかないという面が多々出てくるということですね。目の前で見えているものが見えない点など、理科の観察の指導の分野でもいえることです。

生物の学習は特に自然が一番の教材になりますから、それをいかにして教室に持ち込むかということとを、逆に教室から出て行って学習するかにかかっています。

ですから、私の初等理科教育法の中では、先ず、構内の植物をデジタルカメラで撮らせて、写真記録を作成させ、それを通して図鑑の使い方を教える。総ての生物を知っているということ、新任教員では先ずあり得ないので、知らなくてもいいから、その度毎に知らないことを調べる事が出来るようになることを目指しています。

また、図鑑の使い方を調べて調べていくという姿勢を最低でももってもらおうと、知らないからと言って終わらせてしまうと、子どもたちがそこで興味関心を失わせてしまうことになりすね。

そこで、その授業でその基本姿勢を身につけてもらい、子供と共に一緒に学ぶ姿勢を見ることが出来るようにすることが一番です。

また、生物を調べていて知らない生物に出くわしたとき、「フィードバック」というものを付けます。例えば、「えのころ草」に似ているから「えのころ草もどき」という風にしておくのです。名前を付けさせるという活動自体が、例えば「何と一緒かな」「どこが違うのかな」と言う風に探究の視点につながります。実際に図

鑑で調べてみると同じ名前だった面白いです。こういう活動で科学的な目が育ってくるものだと思います。

否応なく生物を調べることが続ければ、知識はだんだん増えていきますから、学ぶ姿勢をなくさないというのは基本だと思います。

勿論、植物にも動物にも生き物が一番いろんな情報を持っていますから、だからこそ小学校の授業では、教室だけで授業するのはもったいないですね。

新しい指導要領の中で、例えば「季節の変化」という単元がありますが、それを教室の中だけで教科書を中心にしてだけの授業で終わりとはいけません。定観測・観察をしてもらいたいと思っています。春夏秋冬を通して、その違いを知るために校内の適する場所を探し、外に出て行ったりして、または生き物を飼育したりと、子ども達が学べる環境をつくれる能力を持ってもらいたいと思っています。

そういう意味合いでも、冒頭で述べたような「理科実験体験プログラム」というものは、特に最初の方は生き物として「モンシロチョウ」の卵を採りに行って、飼育していきます。現在の教科書は写真を含め、観察しなくても形態を知ることが出来るのですが、実際に飼育するという活動をしながらは本場の理解に結びつかないと思います。

例えばモンシロチョウの幼虫の糞に関する事です。笑い話として、よく「芋虫の卵を見つけたよ。それを観察して、いつまでたっても卵が孵らない、それに色も変わってきたよ。」と言われて、よく調べたら、それはモンシロチョウの卵ではなくて、糞だったということがあるのです。幼虫の糞は臭いもないし、糞をしたときは緑

色ですし、汚いものでもないのです。全然見分けがつかないと言うことなのです。

また、モンシロチョウの卵は本当に小さいものですから、初心者にとつてはいまぐさで見えなれないのです。やはり実験をしなければならぬことになりますね。

また、孵化する時の感動とかは教科書では味わえないですね。今の教科書は実によく出来ていて知識の面では素晴らしいものがあります。例えば、実験結果等も綺麗に述べられていて、実験しなくてもいい位になっていますが、実験を通しての喜びとか発見の驚きとかの感動の実体験とかは、そこからは得られませんね。

理科には実験があつて、その準備、実施、後片付けを全部含めて教員の大切な要素であり、特徴でもあると思うのです。その意義とかを体感させるようにしようとする教員になってもらいたいと願っています。



教材・教具

今の学生気質について

一番思うのは大変なことです。良い面がそうですがちょっとまじめすぎるかなと思うこともあります。ちょっとまじめすぎている状態なので、教員になつたとき大丈夫かなと不安、心配な学生がいます。理科的な視点でみる

と、そのまじめさでもってデーターの集積、整理もきちんと出来ている意味合いからいっても良いのですが、ある意味ユニークな発想、創造的な発想の面から言うと、もつとくだけて面白く出来るあと思ふときがあります。

構内植物観察のレポート用紙のまとめ方は、一枚の用紙を上手に使い、一つのマップのように表現して、また、その内容も自分の感想も入れたりして非常にユニークな学生もいることはいます。

卒業生への呼びかけ

一番に願うことは、「現場に出て何か困った時には、是非大学を利用してもらいたい」とです。

「行き詰まる前に、早く連絡をしてほしい。」と卒業していく学生に常に言っています。折角の縁あつて一緒に学問を学んだのですから、たまには、大学の方へも顔を見せに来てくれると嬉しいですね。

就職してすぐには時間が取れないと思いますが、少し時間と心に余裕が出来ると思いいます。そので、時期を見計らつて、こちらから声をかけていったり、こちらから要望したりしながら、継続的につながっていきたくと考えています。

私も、中高の現場経験がありますから、その良さ、強みを生かして教育現場の要請に応えることができるように日々実践しています。学生と共に学んでいくことを常に心がけています。

先生の多面的な引き出しから話される新鮮で豊富な内容に、私は時の経つのも忘れ引き込まれた。研究室は児童生徒や学生が興味を引くであろう教具や教材が溢れ、楽しい一時を過ごした。

先生は、現場の先生は今大変忙しいので、なかなか参加しにくいのが現状です。なるべくいろんな先生方へ参加していただきたく、PR活動も積極的に行っていきたいと考えています。

「愛媛大学教育学部サポーター制度」より

「コミュニケーション能力の育成」(二)

加藤 富子氏講演より

(昭五三卒)

はい、お疲れ様でした。えー今皆さんはこの空間をいろいろ動いてくださったんですけど、動くときに相手の身体がここにあつたりとか、当たって大変と思つたこともあることでしょう。予期しないことが生きる上では沢山あります。決まつたことは殆ど無いですよ。毎日、その瞬間、瞬間、自分で判断して、よりよい方向を選んで生きていっているのですよね。なるべく五感を働かせる。相手をキャッチする。必要なときには自分を主張していく。そういうことをちよつとしたゲームなのですけれど感じてもらえばよかったです。以前、私はね、東京で満員電車に乗って公演地に行かねばならない時間だったので、朝のラッシュ時間帯だったので、次から次へと人が乗車してくるの



です。そこで私は、降りられなくなつたのですよね。私はここで降りなければもう私は舞台に間に合わないと思つて、「すみませーん！降ろしてください！」と、大きな声で叫んだら、周りの人たちが「降りるつてよ！」とい

いながら道を開けてくれてくれ、私は冷や汗をかきながら降りることが出来ました。皆さん、これからは自分の力で歩いて行かなければならないことが沢山あると思いますので、どうかこれからも五感をもつともつと鍛えてもらいたいと思います。

では、このゲームを最後にして、次に海渡君と「ウインクキラー」というゲームをしてみたいと思います。海渡君どうぞ！

「もうすでに知っている方もいると思いますが、ちよつとやってみたいと思います。今までできてきた、「yes and, yes but」とか、「集合ゲーム」を総合したゲームになっております。

とてもエキサイティングした面白いゲームになっております。今日参加できるのは十名までとなっております。では、ここでこのエキサイティングゲームにチャレンジしたいと思われる方、ちよつと拳手してもらいませんか。はい、じゃこの十名前に出てきてください。

はい、揃いましたね。はい、では、このゲームはこの限られたスペースの中で、普段はもつと広い場所を使つて行うのですけれどもね。この十名の方に少し狭いですが、歩き回つてもらいます。そして、この中の二人が犯人役になってもらいます。この二人の犯人役はこのスペースの中で、皆歩き回つている中で、「ウインク」をします。で、その「ウインク」された人は、その場で死にます。その死んだ人は順々に自分の席にも戻ってもらいます。その「ウインク」している犯人は二人いますね。その二人の残りの八人の人が見つけるというゲームです。このゲームはこの狭い空間ですが、同じ道をぐるぐると動くのではなくて、空いているスペースをどんどん埋めていくというのがルールです。ざーと歩いていて、立ち止まって犯人を捜すのではなくて、歩きながら探すのです。いいです



い。「ウインク」された人はできるだけ派手な方法で死んでいってください。で、犯人を見つけたら「ハイ！」と言って拳手して、「はいどうぞ」と言ったら「この人が犯人です！」と指名してください。当たればその犯人は抜けなければなりません。外れたら、その拳手した人が死んで抜けます。

はい、そんな感じでよろしいでしょうか。何か疑問点はありませんか？ありませんか？。ではいきますよ！ゲームスタート！

歩き回りますよ歩いて歩いて、犯人は絶対にはれないように。おー早速死にましたね。続いてこの人も。できるだけ声を使つて大きな声で。犯人は見つかりましたか？分かつたと思われた方は拳手してみてください。ハイ！その人を言つてみてください。「じゃー、ルールをもう一つ作ります。その「ウインク」された人は五秒後に死んでください。犯人があまりにばれないような工夫するのですよ。では、続けますよ。ハイどうぞ！

「派手に死んでいく動作に会場は大爆笑。その時、犯人が指定される。」

当たりです！では、もう一組やってみましょう。今度は皆さん積極的に拳手してくれましたね。

では、はい、十名の方前に出てください。今度もさつきと同じルールでおこないますね。じゃー犯人を決めます。黒板の方に向けてください。犯人指名。はい決まりました。今、肩を押さえた方が犯人ですよ。では、このスペース一杯に広がってください。特に気をつけることは「ウインク」された人は五秒後に死ぬ動作をしてくださいね。

かしている自分の中に、普段と違った自分を発見しましたか。こんな自分も、今日はちょっと新しい自分があったなあと気がついてくださると、私はとっても嬉しんです。

では、はいスタート！どんどん動いて動いて、歩いて歩いて。うおー一人死にましたね。ハイどんどん動いて動いて続けてください。ジェスチャーの派手な方に拍手拍手。ハイ犯人が分かったら指名してくださいよ。次々と派手な死ぬジェスチャーに会場は大爆笑。そして、犯人指名。当たり！解決しましたね。ありがとうございました。今後、もし行うとしたなら、もっと広い空間で実施してもらいますと、さらにエキサイティングなゲームになり、より面白いゲームになりますので、是非自由な時間がありましたら、ちょっとやってみようとお仲間同士声かけあってやってみてください。

自分はこんな人だと安易に決めつけないで、一杯、一杯いろんな可能性があつて、いろんな自分がありますので、是非発見していただきたいと思います。

今度は「言葉を使って『イメージを広げる』」をちょっとやってみたいと思います。

皆さんに今日お配りしたパンフレット「誓いのコイン」を出して見てください。はい、これですね。このパンフレットの上に言葉が書いてありますね。これをちょっと読んでもらいます。その前に一度海渡君にこれを読んでもらいます。はい、お願いします。

「舞台は明治、……この星が出来たとき国境はなかった。国境が出来たとき争いが生まれた。国と国とを隔てる国境は消せないけれど、人と人とを隔てる国境を越えていこう。心の国境を越えたい。力ではなく愛の力で、心の国境を越えたい。灯火掲げ自分の足で。」

「舞台は明治、……この星が出来たとき国境はなかった。国境が出来たとき争いが生まれた。国と国とを隔てる国境は消せないけれど、人と人とを隔てる国境を越えていこう。心の国境を越えたい。力ではなく愛の力で、心の国境を越えたい。灯火掲げ自分の足で。」

グなのです。ちなみにこの「誓いのコイン」を「坊っちゃん劇場」で見たことのある人はいますか。あつあつとう。いますね。えーと、明治三十六年頃の出来事ですから、殆どの皆さんは分からないことですけど。日露戦争の時期にロシア人捕虜が、松山には六千人ほど来ていました。そして、松山のおもてなしの心でもって大変手厚く看病したり、受け入れたりしていたのです。この大学の近くで、勝山中学校区でもある御幸町にある「ロシア人墓地」を知っていますか。これは多くの皆様ご存じですよ。今は勝山中学校の生徒会中心に綺麗にお掃除をしてくださっているのですけれど。そのロシア人と日本の看護婦さんとの交流を軸に舞台は創られているのです。で、昨年一月に松山城の二の丸跡の井戸から一枚のコインが見つかりました。そのコインの中に、ロシア人の名前と日本人看護婦さんの名前が刻まれていたのです。きっとこれには何か深い繋がりがあったのではないかと。そこからヒントをもらって舞台が創られているのですが、作者は「国と国とを隔てる国境は消えないけれど、人と人とを隔てる国境を越えていこう」と「心の国境を越え

たい」とのテーマを私たちに与えられました。皆さんはこの言葉聞いてどんなことをイメージされますか。「心の国境を越えたい」「心の国境」とは一体なんだろう。私たちはお稽古時に「仕込み」と言うんですけど。「皆さんは今生きていて『心の国境』をどんな風に思いますか。どんなところに『心の国境』が、人と人とを隔っていると思いますか。これからまずーと考え続けていってください。」と作者から言われています。ああ、きっとそれぞれ思い当たることの違いがあると思うのです。今、皆さんは十代、二十代の若い世代ですけど、二十年ほど生きてきて、隔っている国境は何なんだろうということ、考えてみてください。そして、私だったらこう思う、こういう心の国境を越えたい。その思いを込めてこの文をもう一度読んでもらいたいと思います。

はい、少し自分の中にイメージが湧きましたかね。この作品はロシア人と日本の看護婦さんが恋仲になって結婚したいのだけでも時代が許さなかったのです。戦争という時代もありました。でも、人と人とが結ばれなかったのは、実は戦争ばかりではなかったのです。心の国境が二人の中を阻んだわけですけど。今は、国際結婚などは当たり前とか、地球に住んでいる人は皆お友達という感覚はあるかもしれないけれど、本当にそうなんだろうか。どうなんだろう。自分が今人と接するときに、そういう「心の国境」をもってはいないか。人からそういう「心の国境」をもって接せられたことがありはしないか。どんなことがあるのでしょうか。本当にコミュニケーションを人と人が心通わせて生きていく上で何が障害になるのか。私たち一人一人の心の中にありはしないか。という問いかけを作者はしているわけですけど、ちょっと自分はどう言う考えがあるなという上で読んでいただければよいと思います。

じゃーここで皆で一回声を出して読んでみましょうか。皆で声を合わせて一回、どんな言葉なのか

ということを大きな声を出して読んでみたいと思います。いいですかね。「この星が出来たときから」と言う文から始めましょう。はいどうぞ！ ～一斉に声を合わせて読む～

はい、ありがとうございます。じゃー自分の心の中で思う「心の国境を越えたい」「こんな心の国境を越えたい」について、えーじゃー誰か読んでください。自分そのものでいいのです。今、私はこんな感じる。また、これがどんな時間が経つたり、あること

にぶつかつたら、ああ私の心の中にある心の国境を越えたのはこうだったんじゃないかなと、気がつくことも沢山あると思います。突然これをお渡しして考えてと言うのだから、まだまだ分からないことも沢山あるとおもうのですけれど



ど、こんなのかなあと思うことでいいと思います。

はい、誰か読んでみてくださいますか。はい、ではあなた、ちょっと立ってお願いします。自分の考える「心の国境」でいいですから。その思いを込めてこの文章を読んでみてください。自分のイメージで読んでください。～指名された学生が読む 読み終えて会場大拍手～

では、自分の考えた「心の国境」をちょっと話していただけませんか。

「自分の考えた『心の国境』というのは、自分と異質なものというものを排除しようとする気持ち、心情のことと考えました。自分と同じようなものと馴れ合うという気持ちにどうしても人間はなってしまうと思うのです。けれど自分とは違う、例えば外国人であつたり、ちょっと自分とは違う人達を積極的に愛をもつて仲良くするとか、心同士でふれ合うのが『心の国境』をなくするのにつながると自分は思いました。」

～会場拍手～

はい！ありがとうございます。じゃ『心の国境』を越えたいという思いがあつていいのですよね。お名前は「社会科教育専修の



Fです。」
「F君は大変はきはきしていませんね！」

じゃーもう一人どなたか、海渡君誰か選んでください。はい、その学生さん。上手に読むとか等要求していませんから。ちょっと自分の思いを言葉に乗せようかなと言う思いで読んでくださつていいのですよ。

はい、お願いします。では、皆に顔が見えるように前に出てください。

～指名学生読む～

読後感を言ってください。
「『心の国境を越える』というのは、お互いに信じ合えるという風に考えました。」

お名前は？「保健体育専修二回生Kです。」

K君ありがとうございます。

そうですね。信じ合える人を沢山つくりたいですよ。では、あと一人か二人お願いしたいですね。はい、誰か？そうですね、結構勇気がいりますね。みんなの前で、それも初めてのこのような文章を読まなければいけないのですから。上手に喋るようななどと思わないでね。

では貴方どうぞ！～音読終了 後大拍手～

読後感「私はその『国境』のことを差別とか偏見とかでないかと考えました。それを『差別する心』だけとるとすることも大事ですけど、秘め心をとるということ」「人間社会学科コースAです。」

こんな感じで、表現というのは、この理解とかイメージとかがあつてのことですよ。きつと発表してください。二人とも、もつと思うことをクリアにして。じゃー、それを伝えるためにその次をこのようにしたらいいかもしれないとかとお稽古したり、考えを深めたら全然違うことになると思うのですけれど。でも私は先ず、自分の頭で考える、そして、表現してみること、先も言いましたけれど、何時も何時も、毎日、毎日この瞬間、瞬間が決められた台詞、決められ

た行動は何もありません。常にその瞬間瞬間を生きているわけですから。そこで自分は何を大切に感じて何を相手に伝えたいのか。また、相手から何を受け取るのかというの、自分の心を何時も自覚させたり、そして、何時もより素晴らしい自分を発見し発展させていって、豊にしておくということとはとても素敵なことだと思います。

本当は皆さんに「坊っちゃん劇場の舞台」見に来て下されば、それで全然OKですけども、何時機会があるかどうか分からないので、作者がこれを歌にしたらということ、歌にしました。主人公のニコライというロシア人とサチが歌っているのです。とても素敵な歌ですが、今日は親子で一曲がこんな表現にもなるんだなあ



ということ、ちょっと聞いても
らった方がいいのではないかと思
い音楽を持って参りましたので、こ
こで歌ってみたいと思います。

歌い手が変われば、その表現も
全然変わりますし、場所が変われ
ばそれも違うんですけれど。今日
の場合は私初めてなんですけれ
ど、私それをトライしてみたいと
思います。

バックグラウンドに音楽を入
れ、台詞付きの二人のデュエット
)

（会場は割れんばかりの拍手）
このように一つの言葉からもし
ろんな表現がありますよね。

これで本日のワークショップ講
座は終わりますが、私たち海渡君
もそうですが、一番やはり「コミュ
ニケーション」と言ったときに、
言葉それも表面的な言葉ではなく
て、ほんのり相手に思いをはせ、
そうして相手にとってこの言葉が
どんなに伝わるのか。どんなにプ
ラスになっていくのか。そんなこ
とを思いながらコミュニケーション
を考えていければいいなあと思
います。そして、さつきもいいと
ころ探しをしましたけれど、皆さ
ん一人一人これから沢山可能性が
あります。私も「わらび座」とい
う劇団に入って、最初本当に苦勞



しました。○×、点数、決まった
答え。特に私は数学が好きですの
で、公式さえあれば答えは出てき
ます。だけど、人生はなかなかそ
のようなことは無いのです。喋る
にしても、こういう風にと、上手
く喋るマニュアルもないのですよ
ね。一回一回、一瞬一瞬を自分と
格闘しながら、新しい自分に挑戦
しながら、自分を信じて、そして
周りの仲間、周りの沢山の人達を
大切に思っ、自分を発見、發揮
していく。そして、この時代を一
緒に創造していく、そういうこと
を実行していくことで、素敵なコ
ミュニケーションが取れると思ひ
ます。今は若い皆様は就職するの
も大変な時代になっていますけれ
ど、どうぞ自分に自信を持ってい
ろんな出会いが待っています。本
当にこれは不思議なのですね。私

がこうやって皆様の前に立てるの
も奇跡だと言いましたけれど、本
当に奇跡のような出会いが沢山あ
ります。どうぞどうぞ自分を信じ
て、毎日毎日に磨きをかけてくだ
さい。

今日は挨拶の仕方、マナーの仕
方はできなかったのですけれど、
皆様の中に、自分に対しての何か
が発見できるのであれば幸いです。

はい、もしか最後に疑問とかあ
れば？ 疑問はありませんか？

それで「坊っちゃん劇場」は今、
皆様持っている「学生証」とこの
「富さんの講演を聴きました」と
言いましたら、入場料3500円
のところを2000円で入場でき
ます！ですから、是非「坊っチャ
ン劇場」に来てください。皆様と
同じような若い人もいますので。

では、海渡君も一言どうぞ！

皆様今日はありがとうございます
です。僕は今年で二十三歳になり
ますが、皆様と年齢では同じだと
思います。同年のものが何を言っ
ているのだと思われたかもしれま
せんが、でも、今日の皆様がワー
クショップを受けている姿を見て
いて、私は安心しました。それは
とっても凄く最近の人はコミュニ
ケーションが苦手だということ

よく耳にしたり、実際に見たりし
ますが、皆さんは凄く積極的に
ワークショップに取り組んでいる
ことに希望を持ちました。

これから社会に出たとき、あま
り好きではない人と接しなければ
ならないときがありますが、そう
いうときにもその人の良いところ
とかを受け入れられるなというと
ころを探して、社会に適応してい
ける人にどんななっていてほ
しいと願っています。

今日は皆さんと出会えてよかつ
たです。ありがとうございます。
皆さん今日は楽しかったです
か。会場「はぁーい！ あり
がとう！」

ではまたお会いしたと思ひま
す。本当に今日はありがとうございます
しました。



ワークショップ風景



教育学部曲田清維教授のプロジェクトグループと 八幡浜市が「2012年 WMF モダニズム賞」を受賞

学内最近のニュース

教育学部曲田清維教授のプロジェクトグループと八幡浜市が「2012年 ワールド・モニュメント財団/WMF モダニズム賞」を受賞しました。

国や文化の枠を超え、世界各国で歴史的建造物などの文化遺産の保護・保存活動を行っているワールド・モニュメント財団（本部：ニューヨーク、設立：1965年）が、平成24年10月4日（木）、世界のモダニズム建築の修復・保存活動の最たる例として、愛媛県にある「八幡浜市立日土小学校」の修復・保存・再生に大きな役割を果たした、建築家コンソーシアム（教育学部曲田教授ほか5人と八幡浜市）に「WMF モダニズム賞」を選んだと発表しました。

同賞は、モダニズム建築の存在を危うくする課題に焦点を当て、その克服と保存・再生に貢献した建築・設計関係者の功績を表すという、世界でも例をみない、モダニズム建築の保存・継承を目的としたプログラムです。2006年開始以来隔年で発表されており、今回で世界3例目となりますが、申請が20カ国から寄せられ、その数は40以上と今までで最多となりました。

過去2回の受賞対象となった建築は、地理的には共に欧州に位置し、且つ竣工年代も1930年前後であり、時期的には第二次世界大戦前のモダニズム建築です。この点、今回の受賞対象となった日土小学校は木造建築であるとともに、大戦後のモダニズム建築として初めての受賞対象建築となります。

また、日々使われている小学校という公共建築でもある日土小学校の修復・保存・再生の実例は、国際的にも認知されたということも相まって、日本を含め世界のモダニズム建築のこれからの保護・保全に多くの示唆を与えるものと考えられます。

同賞の審査選考は、米国ニューヨーク近代美術館（MoMA）のバリー・バーグドール（フィリップ・ジョンソン建築・デザイン主席学芸員）を審査委員長とする、独立した審査委員会により行われ、全会一致で決まりました。なお、授賞式は平成24年11月13日（火）に、ニューヨーク近代美術館にて執り行われました。

日土小学校の選考に当たっては、

- 1) その建築設計の独創性と革新性
- 2) 竣工（1956-58年）以来他の模範となるような形で保護・保存され、日本のモダニズム建築史に刻み込まれてきたこと
- 3) そして1999年頃からの保存活動が、2004年の台風被害を機に取り壊しの機運が高まるなど幾多の困難を乗り越え、地域社会と常に向き合い、共に課題を解決し、そして価値を再認識し、その修復・保存・再生に至ったことなどが評価され、日土小学校の例は、世界のモダニズム建築の、修復・保存プロジェクトの完璧な模範と言える、と評されました。



貴木川からの景観



図書館

教育学部曲田教授のプロジェクトグループと八幡浜市が WMFによる授賞式に出席

国や文化の枠を超え、世界各国で歴史的建造物などの文化遺産の保護・保存活動を行っているワールド・モノメント財団（WMF）の「ノール モダニズム賞」に選ばれた「八幡浜市立土士小学校」の修復・保存・再生に大きな役割を果たした、建築家コンソーシアム（教育学部曲田教授ほか5人と八幡浜市）が、平成24年11月13日（火）にニューヨーク近代美術館（MoMA）で開かれた授賞式に出席しました。

同賞は、2006年開始以来隔年で発表されており、危機にひんするモダニズム建築物の修復・保存に貢献した建築家らに贈られています。

WMFは授賞理由について、2004年の台風被害で校舎取り壊しも議論されたが、「地域社会と共に課題を解決」することで再生にこぎ着けたことを評価したもので、「世界のモダニズム建築の修復・保存プロジェクトの完璧な模範」であると絶賛しました。

◆「WMF ノール モダニズム賞」受賞の紹介記事

http://www.ehime-u.ac.jp/education/news/detail.html?new_rec=9870



表彰式での受賞者



賞杯（の楯）

教育学研究科学生が声楽コンクールで入賞しました

平成24年8月19日に大阪市で行われた、第15回“長江杯”国際音楽コンクール声楽部門（大学の部）において、教育学研究科（音楽教育専修）の2年生、張卓さんが、第3位（1位なし）に入賞しました。

中国音楽理事会主催で大阪府と大阪市の後援によるこのコンクールは、ピアノ・声楽・弦楽器・管楽器・打楽器・邦楽・民俗音楽・アンサンブルの8部門があり、全部門274人の本選通過者の中から、今回の入賞となりました。

張さんは、中国から来日し、数年前に愛媛大学の研究生となり、現在は大学院で、「気導音と骨導音の相違」に着目した研究を行っており、この研究成果を自らの発声練習に取り入れ、コンクールに挑戦しました。

〔受賞者の張さんのコメント〕

母国の中国では、十分に声楽の研究ができず日本に留学しましたが、愛媛大学で研究する機会が得られたことに、大きな意義を感じ、感謝しています。学内外を問わず、愛媛県の音楽関係者の方々から様々な助言を頂き、谷口敬子先生や大澤宣晃先生など、著名な方からピアノ伴奏をして頂いた経験が、今回のコンクール入賞に結びついていると思っています。

これからも理論と実践の両面から、音楽表現について研究を深めていきたいと願っています。愛媛の皆さん、愛媛大学の皆さんに心から感謝しています。



受賞者 張 卓さん

職場だより



★ 今までの生活を ★ ★ 振り返って ★



新居浜市
金子小教諭
竹田 章紀
(平二三卒)

愛媛大学を卒業し、教員として働くようになってから早くも二年目を迎えました。教員としての仕事の内容や振る舞いなど、分からないことばかりでしたが、周囲の子どもたちや先生方のおかげで、少しずつ自分のものとしながら日々活動しています。まだまだ未熟でできていないことも多く、たくさんの人に迷惑をかけてしまうことも多いです。ですが、そんな中でも子どもたちに対して気を付けていることがあります。言葉遣いや学習指導のことなど、たくさんありますが、一番気を配っていることは「話を聞く」ということです。それは、昨年度の子どもたちとの出会いがあったからでした。昨年度は三年生の担任で、

三十三人の子どもたちと一年間過ごしました。みんな元気いっぱい、毎日勢いに圧倒されていたことを思い出します。初めての子どもたちとの生活がとても楽しく、みんなが笑顔で学校に来て活動できるようにするために、教材研究や生徒指導をしつかりしようと思いつながり過ぎていました。たくさん遊んで、楽しい思い出をたくさん作ってもらおうと思いい、昼休みも校庭へ出てどんどん活動しました。しかし、その心意気とは反対に、うまくいかないことも多くありました。授業では内容が脇道にそれていつて予定通り進まなかったり、些細なことでも休み時間に子どもたちがけんかを始めたり、宿題の出し方に問題があつて、学力の定着が不十分であつたりするなど、自分自身の勉強不足で学級運営がうまくいかないことが多々ありました。そのようなときには自身の考えをこんこんと気が済むまで子どもたちに話し続けるだけで、子どもたちの意見や気持ちを知ることができなかったと思ひます。

時には熱くなってしまい、恥ずかしながら子どもたちに対して失礼な態度をとっていたこともあつたように思ひます。そうして自分勝手な態度を取り続けていくことで、子どもたちの中には不満を感じる子が出てきました。「先生はおつきい声で言うけん怖いわい」という言葉をこそつと聞き、これではだめだなと感じましたが、どうすればいいか分からず困つてしまいました。ある日、校長先生とお話しする機会があつたので相談したところ、「それは子ども行動の裏側を見ようとしていないからだ。自分の思いを伝えるのと同じように人の思いを聞くことがとても大切だよ。」と優しく教えてくださいました。自分の態度を意識的に変えていこうと思ひました。それからは授業のときや休み時間など、子ども話を聞くことを大切に行ってみました。すると、自分が今まで知らなかつた姿をたくさん見ることができました。ある子は部活でサッカーをしたあとに家の手伝いをしてるので毎日ぐたくたで、宿題がなかなか家でできにくいという事実が気が付くこともできました。また、そのことに気が付くことで、授業の形態も

少しずつ変わっていききました。気になる子どもを中心に授業を仕組んでいくことで、子どもたちのよい良い成長を見ることができたように思ひます。子どもと同じような目線に立つて、活動することが大切だと改めて感じました。昨年の経験から、大人も子どもも関係なくかわりあうことが大事で、そうするためには会話をすること、特に聞くことを重要視していくことが自分に必要なものなのだと知ることができました。また、このような話もありました。私の学校のPTA会長さんが、こんなことを教えてくれました。「最近の近所のトラブルのほとんどは、コミュニケーションが足りていないからだ。周りの人たちがどんな人か知らずに自分の権利ばかり主張する。思いやりがなくなっているんだ。あいさつや地域の行事などで顔を合わせて、話をしていれば、ちよつともめるような原因を作つたとしても優しく教えてくれるよ。」このことを聞いて、その通りだと思つと同時に、学級に生かしていきたいと感じました。子どもたちは友達同士で勝負な思い込みで生活していることも多くあります。最近仲良しの子同士でしか

話をしない子が多いです。まずはいろんな人と話をして、コミュニケーションを多くとり、人間関係を作っています。ここでも「話す」「聞く」活動を中心に輪を広げています。このように、たくさんを知ることができました。それでもまだまだできていないことが多くあります。これからも困つたことがあつても、試行錯誤しながら実践を続けていきたいです。毎日段取りが悪く、ばたばたした生活を送っています。しかしその中でも子どもたちのかかわりを今まで以上に大切にして、子どもと一緒に成長していきたいです。



☎ 792-0035
新居浜市西の土居町
二丁目一五一二二

That's life



伊予市
郡中小教諭
宮本 江美
(平二四卒)

「That's life」

ロシア出身の元女子フィギュアスケート選手であるイリーナ・スルツカヤ選手が二〇〇六年のトリノオリンピックで三位に終わったときに笑顔で答えた言葉である。たとえどんな結果でも前向きにとらえるスルツカヤ選手だからこそ、このような言葉を残せるのだと思う。

大学を卒業して、そろそろ一年がたとうとしている。現在、私は、ピカピカの先生一年生をしている。一日が終わるのが早く、毎日失敗の連続である。私自身へこんでも、寝たら一瞬にして忘れろという超ポジティブな人間だと思っていたが、それが毎日続き、一年半以上毎日続けていた日記を今年度になってから全く書いていないほどである。

一学期のときは、分からないということも分からず「当たっていく前に碎けてしまった」状態が続

いていた。しかし、二学期になって、教師の仕事にも徐々に慣れてくるようになって、ほぼ毎日のように自問自答している。「こんな私が教師になってよかったのか」と。小学四年生のとき、参観日の社会科の授業で「ごみ収集車の中に入ってみよう」とアホなことを言っていたこの私が教える立場になってもいいのかと。

私は教師になるまで自分の道は自分で選んできたし、自分が選んだ道に後悔したことはない。現時点で、自分の選んだ道は自分にとって楽しい冒険となっている。だが、教師になって一度だけ後悔という言葉が頭の中によぎった。そのとき、たまたま見ていたスルツカヤ選手の演技の動画を見て、彼女のその言葉を知った。そして「これも人生。自分が進んだ教師という道を楽しいものにしなくちゃ。」と前向きに考えた。それ以来、毎日楽しく、ときには私も子どもになって子どもたちと一緒に笑っている。

授業や生徒指導などダメなところがたくさんあるが、その中でも特に学級経営がうまくいかず悩むことがある。一人一人をもっと大切にしたい学級経営をしたい！と思っても、実践にはなかなか繋が



らない。それでも、「この学級になってよかった。」「この学級で(二年後の)修学旅行に行きたい。」という子どもの声を聞くと、この思いを踏みにじらないようにしなければと励みになる。

こんな私を好きでいてくれる子どもたちがいるんだなと思ったエピソードがある。今年の私の誕生日の当日に、「先生お誕生日おめでとう！」とお祝いしてくれた。中には、手紙やプレゼントをくれた子が何人もいた。更に、誕生日の当日が本校の運動会でもあったため、「先生にクラス対抗の団体競技の一位をプレゼントするから

見ててね。」と言ってくれた。団体競技の結果は一位ではなかったが、それまでに自主的に会議を開いて考えた作戦をしっかり実行していただけでも私には忘れられない誕生日プレゼントになった。そんな子どもたちに支えられて、私はこの学級を担任して本当によかったと思うし、幸せ者だと思おう。それにしても、担任している学級の子どもたちは、良い意味でも悪い意味でも私自身に似てきているとつくづく思う。絵を描くのが好きなどころ、生き物が好きなどころ、負けず嫌いなところ、自分のスペースは気にしないもの他の人のスペースが汚れていると掃除がしたくなるところ……。中には、私の宇和島弁+関西弁の変なイントネーションをモノマネする子どももいる。担当する学級が決まったとき、自称四十歳の母が「子どもは担任の先生に似てくるからね〜」と言っていた言葉が見事な中した。私の変人要素はそんな母親に似たのだが。

私が尊敬する恩師は、私が学生のころ通っていた習字教室の先生である。習字の指導が上手な上にとても優しく、親身になって話を聞いてくれた。高校生のとき、習字の先生になってもいいなあと思

ったのが、大学は教育学部に行きたいと思っただきっかけでもあった。恩師から教わった習字の楽しさやおもしろさを、今度は私が教える立場に立って、子どもたちに伝えていきたいと思う。

実は、私は大学生のとき、教師になりたいという夢のほかにもう一つ夢を持っていた。その夢は、いつかフィギュアスケートの世界選手権やオリンピックなどの大きな大会を実際に見て応援したいという夢である。社会人になる選択肢を選んだことで、私のもう一つの夢はすぐには叶えられないものとなった。しかし、最近またこの夢を叶えたいと強く思うようになった。生のフィギュアスケートの演技を見て、その美しさに魅了されたい。

私の教師の道は歩き出したばかり。一年後、五年後、十年後、二十年後の私はどんな道を歩んでいるのかは自分でも分からない。それでも、十年、二十年たつて振り返ったときに、スルツカヤ選手のように「That's life—これが私の人生よ—」と笑顔で言えるような人になりたい。

これまでを振り返って



宇和島市
畑地小教諭
兵頭 秀則
(平一〇卒)

私が初任者で勤めたのは、宇和島市立下灘小学校という全校児童が百名ほどの学校だった。海端の学校ということもあり、何度となく保護者に魚をごちそうになり、いかだの上で飲み会をしたりしてとても楽しく過ごすことができた。私は二度いから落ちってしまった。今思えば、壊してしまいたいかだはどうなったのだろうか、きつと仕事に差し支えただろうかと不安になる。家は、町内の教員住宅を借りた。ベテランの先生方も「あそこは古いよ。」と言われるほど昔からある教員住宅である。お風呂は共同風呂で、掃除当番があり、部屋にはときどきねずみが出ることもあったが、月々の家賃がとても安く、一人暮らしの私にとっては何ら問題なく過ごすことができた。また、若い先生が多く、自宅で飲み会を開いては初任者同士の話もよくできていた。学校以外にも楽しみをもつことができた。下灘小学校の先輩に誘っていたいただき、ソフトバレーをする

ようになった。男女混合の六人制のバレーである。チームの名前は「ハッチーズ」。名前の由来は忘れてしまったが、教員チームで津島町の大会にも参加していた。最初は、一セットとすることもできず、ちよつと上手になることを実感しとても楽しかった。おかげでたくさん地域の人もつながることができた。チーム結成から数年がたち、私の結婚式にも出てもらうほどの仲になった。そこで「いつか大会で優勝しよう。」と話していた。夢は不意に実現するものである。私たちは、津島町の大会で優勝することができた。最初の一セットを取るのがやっとだった時代を知っている地域の方々、自分のことのように喜んでくれた。最後の一点をとった場面は今でもよく覚えている。そのとき撮った写真は大事にしまつてある。と、このように順調な毎日を過ごしていた。初任者から三年が過ぎようとしていた三月、異動の内示があった。私は、自分が変わるかもしれないという思いは前々からもっていた。覚悟もしていた。そして、名前を呼ばれた。校長室に入り、校長先生に「明倫小学校になりました。若いうちに大規模校を経験できるのは将来の自分にとって絶対、宝になるからがんばつて。おめでとう。」と言われ

た。全然、ぴんとこなかった。むしろ、自分はこの学校にはもういられないというショックの方が大きく、その夜は一人で荒れた。もう、親切にしてもらった保護者と会えない、おいしい魚を食べられない、家も引越さないといけない、バレーも続けられるか、とにかくこれまでの生活が大きく変化するのであるということだけが分かった。前々からの覚悟は、全然自分の気持ちをカバーしてはくれなかった。こうして、私の初任者時代は終わった。

そして四月、明倫小学校に勤めることになった。職員室に入り、職員の数にまず驚いた。五十名近くの人が一斉に仕事をしていた。一日の中で話することも出会うこともなく過ごす人がいるのではないかと心配になった。春休みだというのに毎日忙しく、初めて聞く学年部会も毎日に行われた。あつという間に始業式、全校児童七百名近くが体育館に集合した。これぞ大規模校というのを実感したとともに七百名の校歌合唱に感動した。私は、前の学校のようには保護者も児童も先生もとても身近に感じられるか不安だった。その後、四年間明倫小学校に勤めることになるが、最初のころの不安をよそに忘れられないたくさん「初めて」と「感動」を味わうことができた。

運動会では、組体操を初めて経験した。ゆずの「栄光の架け橋」の曲にのせ、最後の特技「明倫大橋」を完成させた。保護者も地域の人も教員もみんな感動で涙が出た。あのときの感動は、きつと児童も忘れていないと思う。また、陸上練習では、初めて「県陸」を経験することができた。児童以上に緊張していたかもしれない。二ツニアスタジアムで力強く走る子どもたちを見て、もつともつと指導者として上達したいと感じた。ドッジボール大会では、保護者が旗を作ってきてくれた。練習にもたくさんの方が協力してくれた。大会には、二チーム参加した。準決勝でAチームが負けてしまったとき、たくさん児童が泣いていた。そして、Bチームに自分たちの思いを託す姿を見て自分も泣いた。決勝は、接戦だった。あと数十秒を残して一人差。ボールはこちらにあった。立ち上がって、「あと少し、冷静になれ。」と言っている自分がもう冷静ではなかった。児童は、頼もしいものである。ボールを持った児童は、こちらの指示に対し、「大丈夫」と言わんばかりに冷静に手を挙げて返してきた。優勝が決まったとき、保護者も児童も教員も手を叩いて喜んだ。初めての卒業式も経験した。三年間持ち上りの子どもたちだった。当日は、涙が出てどうし

ようもないというより、きちんと言えるか不安の方が大きかった。最後の児童の名前を言ったとき、自分の役目は終わったのだと感じた。それと同時に、これが先生の仕事なのだと誇らしく、またさびしく感じた。謝恩会では、保護者と涙でぐちゃぐちゃになった。そして、明倫小学校を去る日、たくさん児童と保護者から言葉をもたらした。下灘小学校のときは、ちよつと違う感覚であったが、なんだか少し自分が成長できたと感じていた。頭の中では、下灘小学校の校長先生の言葉がめぐり、やつと理解できる自分がいた。今では、大規模校で勉強してきなさいと背中を押してくれた校長先生に感謝している。

宇和島市保田甲
139314



教師経験



立花中教諭
山本 大介
(平二四卒)

今治市

去年の三月に愛媛大学を卒業し、四月から昔の夢であった教師として第一歩を踏み出しました。四月当初は、教師として働くことができる喜びはさておき、期待と不安が入り混じる中で新天地での新生活を始めました。

最初の職員会で三年の副担であることが発表されました。新米教師が受験生を教えることに対して不安を感じながらもやりがいがあることだと思ひ、正直うれしく思ひました。しかし、学年部で顔合わせをし、これから新学期への準備……クラス決め、出席簿や学級日誌の作成、教室の掲示物の作成など、学年部としての仕事は多く、教員の仕事の大変さを最初の数日で感じました。教育実習で授業の進め方は自分の中では分かっているつもりでしたが、何をやっていいかが分からない、自分の知らないところで仕事が終わっているなど、自分の無力さを強く感じました。

よ教師の仕事である授業が本格的に始まりました。四月当初は、自身授業内容を終わらせることに必死になって、生徒の様子を十分に見ることができませんでした。私が中学生の頃は、先生は生徒が分かる授業ができて当たり前前と思っていました。しかし、教師という立場に立って授業をしてみると、分かる授業を実践する難しさを感じています。私の授業の理想として、「生徒同士で主体的に教え合う授業」を掲げていましたが、自分の考えていたようにはいきませんでした。少しずつ慣れてきてクラス全体を見渡してみると、十分に理解していない生徒にも目を向けることができるようになりました。しかし、生徒同士で教え合う授業を行っていくとしても、まだ十分に人間関係ができてなかつたり、授業に関係のない話をしだしたりする生徒もいて、自分の理想には程遠い授業でした。そんな中で、同じ三年部の先生で一年間、私を教科指導してくださる先生の授業参観をしたり、自分の授業に対して丁寧に助言していただいたりして非常に勉強になりました。教科指導の先生は、ベテランの先生でありながら、思った以上に授業準備や小テストに時間をかけておられ、大変驚きました。その先生の「手をかけた分だけ生徒に力がつく。」という言葉がと

ても印象に残っています。ベテランの先生が高い志を持って頑張っておられる姿を見て、私もそれ以上に頑張っていきたいと考えています。部活動はサッカー部の副顧問を務めることになりました。小・中・高でサッカー部に所属していたため、サッカー部を持つことができうれしかったです。最初の頃は、生徒の中に入って練習に参加し、毎日泥だらけになって職員室に帰っていました。生徒の立場ではなく、教える立場になって、自分では教えたことは分かっているのにも関わらず、それをうまく生徒に指導することができないためとても苦労しました。サッカーについての専門的な知識や考え方を理解していたとしても、生徒にどのように伝えたら十分に指導することができるのか、もつと勉強しなければならぬと強く感じました。

授業や部活動指導などをしっかりとしたものにするためには、やはり生徒指導ができる教師になることです。私自身が、中学生の頃は見かけたことのない生徒の中にはいますが、そのような生徒に一方的に指導したとしてもあまり効果はないため、しっかりと生徒の言い分や考えを聞くという姿勢を持つことが大切であることを学びました。また、生徒指導を十分なも



790-0821 今治市立花町
一一八一〇

表紙作品について

「遠望」



作者
兵頭 一夫
(昭三八卒)

生来の放浪ぐせもあいまつてよくスケッチの旅をする。実に自由で気ままな一人旅だが、ただどこでも予想以上の感動に出会うことが意外に少なく、ある種の失望すら覚えることさえある。

先年八月、京都を訪れた。そこにはあの銀閣寺があり、官能的な山なみも朝もやにかすんでいた。しかし数多くの高層ビル、駅前には京都タワーが立ちほだかり、街の市電は大半が姿を消した。これはいつた何なんだろう。やはりそこには「日本」「日本人」そして彼らがつくり、伝えてきた精神の、表象たる諸々の文化との不可分の関係、いわば土地の文化に対する、自然でにじみ出るような「誇り」が崩れようとしている現実を、実感させられたものであった。

現在、日本に土地・人間・文化が誇りを持って結びついたところがどれほどあるだろう。それは単に日本の一地域という問題ではなく、日本人そのもの、日本を含めた全体的な問題ではないだろうか。

略歴

昭三十八 愛媛大学教育学部卒業
平十三 津島高等学校校定年退職
現在 無所属
画家 無所属
愛媛県美術会会員

798-0053 宇和島市賀古町二丁目
二の三六

先生一年生



松山市
三津浜中教諭
大野 裕子
(平二四卒)

昨年三月に愛媛大学を卒業し、教諭として教壇に立つてはや一年が過ぎようとしています。私の教員生活スタートの地は、松山市立三津浜中学校です。三津浜は松山市の西部にあり、人情深く温かみがあり、三津の渡しや花火大会、熟田津伝説など魅力多きところで、生徒たちも地域との関わりが強く、様々な地域行事への参加も積極的です。例えば花火大会では、生徒たちは平成船手組として地域の方々のアドバイスも得ながら準備や片付けのボランティアをします。ここでしかできないことがたくさんあると感じています。

もてるものを身に付けることを目標にしました。教科指導でも生徒指導でも部活動指導でもどの分野でもいいから、と考えていました。しかし、まだまだどの分野も日々悩むことが多いのが現実です。確かなものを手にするまでには時間がかかると感じています。先輩の先生方を見ていると、経験の上にある指導なのだろうと思うことがありますし、経験を積んでいっても進んで研修に努めていかなければならないと考えています。

私は現在学級をもっています。自分のクラスがないというのは、所属感がなく少し寂しいです。しかし、先輩の先生方の学級経営を見ることができると貴重な時間があります。学校の流れをつかみながら、先輩の先生方の技を学び、学級担任となったときに少しでも役立てたいです。特に、叱り方についてはそれぞれの先生の色があり、自分に合っているのはどういうスタイルか研究実践中です。何ができていなかったら、何をやってしまったら指導をすべきなのか。全体で叱る場面と個人に

指導をする場面とをどう使い分けるか。叱った後の切り換えやリカバリーをどうするのか。さじ加減を調整しています。本気で叱るにはかなりエネルギーが必要であることを体感しましたが、今分かってほしいという思いを伝えることは大切だと思えました。

クラスはないけれど、自分の所属感を感じる場があります。それは部活動です。自分が中学、高校でやっていたバスケットボール部の顧問をさせていただいてます。「学校生活をきちんとした上での部活動だ」と私は思っており、「バスケ部員の問題は私の責任」という思いで練習を見るだけでなく、生徒と共に成長していきたいと考えています。部活動の生徒たちが「先生、聞いてください」と寄ってくるのを嬉しく感じます。それとは裏腹に、子どもたちは声が出ていなかったりやる気のない言動をしたりすることもあり、腹立たしいこともあります。それでも部活動で何かを学ばせてやりたいと考えることが自身の成長にもつながっているように思いま

す。中学時代、バスケット部の同級生で初心者だったのは私だけでした。とても厳しい練習でしたが顧問の先生に「から教えていただいたおかげで、現在子どもたちも技術的な指導が少しできていないではないでしょうか。中学時代の顧問の先生には改めて感謝しています。今でも役員として大会でよくお会いしますが、当時の怖いイメージとは違った姿も知ることができ不思議な感じがしています。「女子の部を指導できるようになれば生徒指導は大丈夫」とよく言われます。技術云々ではない部分の指導が多いからだろうと感じていますが、自分の成長のためにも今後とも部活動指導にも尽力したいです。

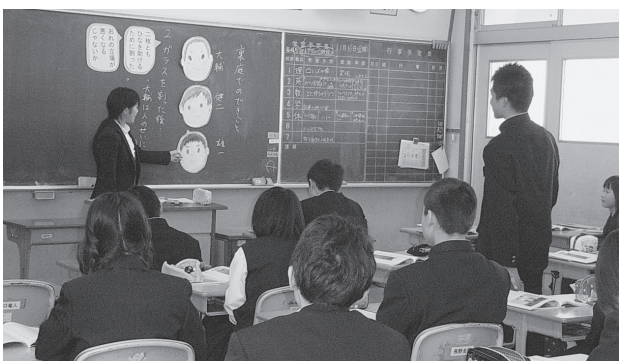
さて、社会人としても一年目の私はというと、息抜きの方法も勉強中です。寝られるときは思いっきり寝る、衝動買いをしてみる、友人とおしゃべりをする、などなど。先生方とお酒の席でお話をするのも楽しいです。また、愛媛大学教育学部卒の同級生も県内外で先生として頑張っています。とき

どき様子をすることができ、「みんなも頑張っている、私も頑張ろう」と鼓舞しています。

自信をもてることはまだありませんし、この先もできないかもしれません。しかし、信念はいつももっておきたいです。周りの先生方にたくさん助けていただきながら、息抜きもしながら、今は若さを武器に学び続けたいです。

☎ 791-8053
松山市若葉町

八一四八



「子どもたちとの交流を深める」

学生チャレンジジャー

久米ワクワクチャレンジサタデー

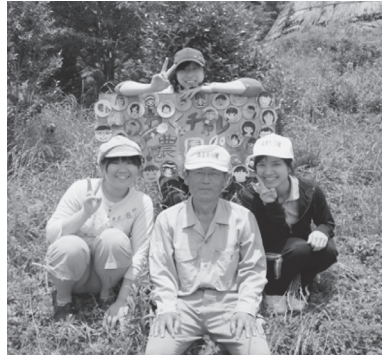
「あいある仲間」づくりを目指して

教育学部教育学専修 四回生

林 紀江

私は三回生からフレンドシップ事業の「久米公民館わくわくチャレンジサタデー（わくチャレ）」に参加しています。わくチャレとは五・六年生を対象にしている公民館活動のことで、月に一、二度活動しており、今年度で八年目になります。

どのような活動をするかということ、人間関係づくりのゲームや自習の時間、授業、体を使った全体遊びを行っています。現在、学生が二十一名と子どもが四十名の総勢六十一名で活発に活動していま



す。

他にも地域の方に協力してもらい、里山でさつまいもと枝豆を育てました。畑を耕したり、ローテーションしてできるだけ毎日水やりや草抜きをしたり、虫の駆除やイノシシ対策など作物づくりの大変さを知りました。収穫祭では子どもたちが嬉しそうにさつまいもを掘り、手を真っ赤にしながらも自分が掘ったさつまいもを楽しそうに洗っている姿やみんなが掘ったさつまいもで作った焼き芋を「美味し〜！」と頬張っている姿を

見ることができ、半年間根気強く作物づくりをしてきてよかったなあと心から思いました。

そして、今年度のわくチャレでは、子どもたちにチャレンジしようとする勇氣や感謝の気持ちを表現する力を育み、自他を認め合うことで、子どもたちの自己肯定感を高めることを目標としました。それに伴い、学生も結果ではなく過程を大切にしたかわりをしています。この目標を立てた理由として、昨年度のわくチャレでの経験があります。

「私なんか……。」
「自分にいいところなんて一個もないし。」

「どうせできないからやりたくない。」
こんな子どもたちの発言を聞き、どうして子どもたちはこんなに自分に自信がないのだろうか、と思いました。子どもたち一人ひとりに良いところはたくさんあります。そこで、子どもたちが自分に自信を持つためにはどうしたらよいかをみんなで話し合い、人から認められることが必要なのではないか、という一つの意見にまともりました。このことから今年度

は自己肯定感を高めることを大きな目標として、子どもたちにもわくチャレ目標を考えてもらいました。

そして、子どもたちから出た意見を踏まえて「あいある仲間」という、わくチャレ目標を立てました。「あいある仲間」とは友達と助けあえたり、協力しあえたりなどお互いに「しあいいい」ができる仲間のことを意味しています。五・六年生で学年もクラスも違う子どもたちがわくチャレという一つの活動を通して、学年・クラス関係なく「しあいいい」を互いにするようになるために毎回の活動を試行錯誤しています。

また、わくチャレをしていると、話し合いや授業研究など大変そうだねとよく言われます。確かに楽な活動ではないと思います。子どもたちは良くも悪くも素直な反応を返してくれるので、必ずしも頑張った分だけ返ってくるというわけではありません。しかし、だからこそ子どもたちが「楽しかった！次も楽しみたい」と言ってくれたり、「たくさんの子と仲良くなれました。」と言ってくれたりして笑顔で帰っていく姿を見ると大変という気持ちよりも、「よ

し！次はもっともっと楽しいわくチャレにするぞ！」とやる気になるのです。

わくチャレでの経験は、私たちにとって成長の場であり、さまざまなことを考えさせられる場でもあります。

この貴重な経験ができるのも、今までわくチャレを築き上げてきてくださった先輩方、支えてくださる白松先生、快く協力してくださる久米小学校の先生方、久米地区の地域の方々、お忙しい中授業の指導助言に来てくださる先生、何より毎回私たちに多くの学びを与えてくれる子どもたちのおかげです。活動を続けられることに感謝して、これからも「あいある仲間」づくりを目指して学生一同、頑張っていきます。





俳句

句集「天使の住む里」より



木曾 聰
(昭三三卒)

眼をつむれば一本松そこに
故里がある
暮れると故里のやぶの上に
静かに星一つ
天然の美を父のオルガンで
歌った遠い日
墓山弟は母の背わたしは
手つなぎ星の歌
尻からげた祖母と潮干狩
峠越えて行く
遠く来て天になぎさの音を聞く
ひとすじの山路の細い心の道
春蘭が笑む
一つは父へ一つは母へ
山寺の鐘つく
ホオジロの天辺の響き宇和海
降れば春愁深まるばかり放哉の鳥
奥入瀬新緑と光すべてのせて
岩ばしる
連山を雲海に沈め富士神々しい
知床の絶景そのまま落とす海幽玄
水平線も鳥もわたしも
もえて旅ゆく
父母の墓山のあるふるさととは
天使の住む里

井泉表紙のことば

「自然・自己・自由」の詩心
木曾 聰

永遠の中の刹那としての
自然のうつくしさよ
人生のかなしきよ
それを書きとめようではないか
それが「井泉」の俳句の詩心で
はないか
(井泉水)



「井泉」の
住む里」
の心のふ

鎌倉の建長寺の近くの萩原井泉水を訪れて、始めようとした「井泉」の援助をお願いした時、この宇宙的感得の大きな視点に立った「自然の心」の詩心の書と、説明でした。現代は、「芭蕉―子規―虚子」の季語と五七五の形式を大切にしている定型俳句保守王国の時代ですが、「芭蕉―子規―碧梧桐―井泉水」の豊かな大自然と現代語表現を大切にしたい自由俳句は忘れられています。私は、この大自然と人との出会いの感動を大切にしたいのです。そして、豊かな人生の生涯を「自然の心」になりきって歩いてきたのです。

昭和二年に生まれた私の幼年期は、戦前の平和な素朴な美しい自然が残っている一時でした。家の前の青年会館から、「空にさえずる鳥の声、峰より落つる滝の音」と「美しき天然」の音色が夜な夜な響いてきて、まさしく「天使の住む里」の心のできたころです。母に連れられて神山の元城の側の墓山、父母に連れられて霊山お四国山、祖母と一緒に歩いたねずみ島、そして、父と登った霊山霊木の金山出石寺と、素朴な神秘的なふるさとであったのです。このように、幼年期に豊かな自然と人々に育まれて、生涯を「自然の心」で幸せに生き抜く根源が育てられたのです。

しかし、青年期の大洲中学生になって、太平洋戦争が始まり、大変なことになりました。昭和十六年中学二年の時からです。軍事教練、学徒動員と、きびしい毎日でしたが、静かに図書室で読んだ石川啄木、若山牧水の歌、そして、宇宙的感得の大きな視点に立った「則天去私」の夏目漱石の文学精神がますます私の「自然の心」の詩心を豊かにしていきました。

そして、青年師範学校に入った私は、すばらしい先生との出会いがありました。篠原梵先生です。「玄之又玄」「秘すれば花」と、新しい日本の俳句と、自然観、人生観、文学観を徹底して指導して頂きました。井泉水と共に私の生涯の「自然の心」の人生の師です。もう一人あります。石森延男先生(文部省教科書編纂委員)です。師を訪問した時、「天心」は詩心です。ね」と言って「今の日本は目ざすこと、物のこと、形のことにとらわれて詩心などには心を寄せない」と言って「井泉」の努力を激励されました。私は感謝して、教師になってからも真実の自然の心の道を歩き続けてきました。

790-0055 松山市針田町 一〇六一六

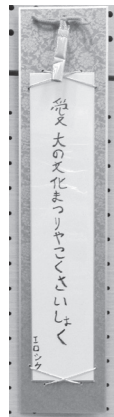
留学生俳句

「第十七回愛媛大学教職員作品展 出品作品」より



秋思

肩に摩天楼より
降りてくる
(田村 七重)



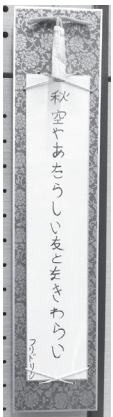
愛大の

文化まつりや
こくさいしよく
(エロツク パウニングナハラニ)



おちばふみ

思いをはせる
とおき山
(パン ハムダニ)



秋空や

あたらしい友と
なきわらい
(フリドリッソ ハンドヤニスアルデイ)



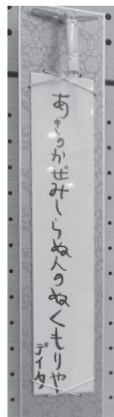
あきかぜに

たくす母への
アイラブユー
(イエシー ラトナサリ)



松山で

かぜつめたくも
友あたたかし
(イルダ ユスニダル)



あきのかぜ

みしらぬ人の
ぬくもりや
(デイタ ラヤダニ)



あさがおや

日本でのゆめ
神にかんしゃ
(ヌルル ファウジア)



川柳

生き様



森貞 和雄
(昭二五青師)

頑固さを意志が強いと誉める人
 急がない絶対来ます終の日は
 一本の杖が頼りの老いの脚
 年金が支えてくれるわが老後
 ロスタイムわが人生の残り火か
 借金で廻らぬ首に油さす
 責任をとらねば言える好き勝手
 厚化粧落した後は別の人
 弁慶が七つ道具を持て余し

なにとなく無精な響き無洗米

つぎつぎと手口巧妙詐欺の国

夢なのか日本人の横綱は

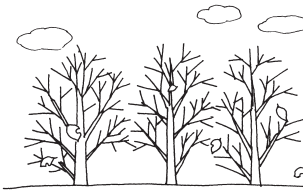
オスプレイ飛んだ飛んだと街の声

巧妙な嘘が真実の衣を被る

先人の生き様学ぶ昨日今日

☎ 791-0245 松山市南梅本町

八八七一二



水墨画

季節を描く

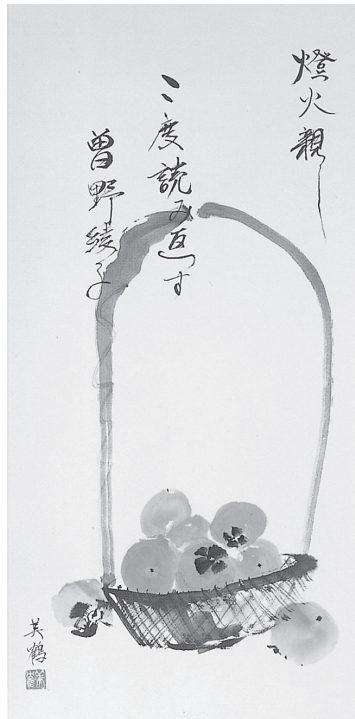
上窪田美鶴
(長岡)

(昭二九卒)

日本は、春夏秋冬の季候に恵まれ自然に恵まれた、平和で美しい国ですね。

書き出しが大袈裟になりましたが、毎日平和でおだやかに暮らせるー長寿国になりました。

俳画は墨や淡彩を使って、その時々々の季節の草花や風景を、自由に描きます。それに賛(詩、歌、



燈火親し

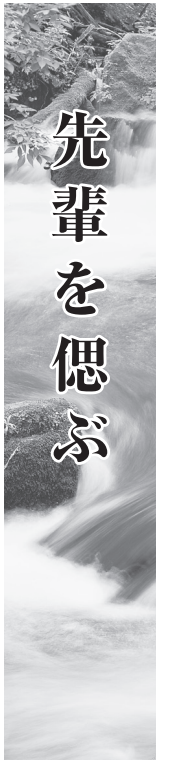
俳句、文)を入れたら、でき上り。画材は手近な所に、いっぱいあります。絵心を引き出してくれる教室へ遊びにきませんか。

☎ 791-8013 松山市山越

二一六―三五



求道の六根清浄



先輩を偲ぶ

林傳次先生遺稿集

「把翠」を繙く (六)

「巻頭言」集より 『愛媛教育』誌より

小さい専門家になることの危険

世には小さい専門に立て籠もつてそれ以外には決して目もくれない計りか、さういふ偏狭な態度を取るを以て自ら矜りとしてゐる人がある。世人にも亦斯る態度の人を篤学の士として推奨する傾向がないではない。これは学者として立つ人なら兎に角―それでも少し異存はあるが―教育者としては最も危険な態度ではないだろうか。

我々の携つてゐるのは専門教育でもなく、また天才教育でもない。小さい画家や小さい文学者、小さい科学者を作るのが手柄ではない。各種の事象に対する正しき理解と広い教養とを育成する事に努めねばならぬ。数理の世界にのみすむ人では子供の情性の陶冶はむつかしく、芸術の世界にのみ憧れてゐる人では子供の理知は発達しなうにもない。かく考えてくると、心理の円満に―完全にとはいえない―発達した人、いや円満な発達

を希求する人のみが教壇に立つ特権を与えられてゐるのではあるまいか。

近時初等教育界に携る人々の間に読書慾の旺盛なのは誠によろこばしい事である。然しながらその書目は多く哲学教育の方向、しかもそれが特殊の問題を取扱つたもの、或はある主義主張を述べたるが如きものに局限せられてゐるのではないかと思ふ。かゝるものは自己の意見を高潮する為に、普遍的な而も根本の原則となる様な部面を閉脚してゐる事が多い。従つて未だ根底の確立してゐない読者は得てその枝葉に拘泥して根幹を忘れたり、部分に踰越して大局を忘れる事がないではない。これも亦早く小さい専門家になる事より起る危険ではあるまいか。

（大正十四年三月号）

こんな事くらゐは

ある夜、師範の音楽の先生が訪ねてこられての話、

「先日一部と乙講との第二次試験がありましてね、例に依つて聴力の検査をする為に歌はしてみたいんですよ、君が代とか紀元節の歌とかをね。所が驚きましたね、君が代の歌詞が様々に歌はれてゐるんですよ」

そこで一寸語をきつてまた続けられた。

「まづ最初の君が代はですね、あそこをキミワヨワと歌ふものが可なりありましたよ。次はいはほととなりての所です。これをイワオと歌つたのは極まれで、或者はイワホトと歌ひ、或者は岩程のつもりでせうイワホドと歌つてみました。それから最後のむすまでですがね、あれをムスマゼと歌つた者が可なりありましたね。更に念の入つたのになるとマスマワレと歌つてゐましたよ。」

聞いてゐて自分は少からず驚いた。まだ小学校にも入学しない頃から幾度口にしたか知れない此の国家が、正しく歌へない者が沢山あらうとは誰か思はんやだ。が考へて見ればこれに類した事は少ない。かつて新に師範に入学した者に五十音図を書かした事が幾度かあるが、正しく書けた者が全級の一割ある事は稀であつた。甚だしいのになるとマ行ヤ行ラ行の順序を忘れて居る者さへあつた。

こんな事位は知つてゐる筈だと考へて、子供の力を試しても見ずに仕事を進める事が少なからずある様に思ふ。知つてゐる筈の事を知つてゐて呉れ、ば文句はないが、知つてゐる筈ではあるが知つてゐない事が多いからむつかしい。ゾルレンとザインとは常に一致するものとは限らないのだから、子供を見縊る事も危険だが、子供を買被る事も慎しまねばならない。買被ると「知つ居る筈」が、「知てゐる」と即断せられて、曖昧な基礎の上に曖昧な基礎知識を築き上げてゆく様な事が屢々起る。この傾向は近頃の教育に特に多いのではないだろうか。

（大正十四年四月号）

水源より河口まで

「我々は実に夥しい数の河を知つてはゐるが、その水源より河口までを充分に知悉してゐる川といつては絶無といつてもよい。が我々の研究の態度としては、河口より漸次遡つて水源に及び、或は水源より流れに従つて河口に至るといふ様な態が必要なのではないだろうか。」

これは柳田国男氏の講演の一節であつた。其後旬日にして氏より贈られた氏の最近の論文「史料としての伝説」中に取扱はれた木地屋の移住史は、氏が公務の余暇

十五年の長い間に、北は会津から南は土佐にまで亘つて蒐集せられた伝説口碑より立論せられたもので、七十頁にわたる長論文、実に氏がさきに述べられた研究態度を裏書きするものであつた。

我が教育界にもかういふ粘りのある、然も根柢を究めねばやまぬ底の研究が必要ではないだろうか。誰かが、目まぐるしく変化するものは猫の目と教育思潮である。と罵倒したが、實際教育界の流行はあまりに慌しい。我々の仕事は春種子を蒔いて秋収穫するといふ様な直に効果のわかるものではない。長い間の日々の仕事、出来事―例へば尋一から尋六まで―を最も精細に記録したものが實際教育家から提供して貰へる日は来ないだろうか。それは如何に貴重な文献となるか知れないのだが。

（大正十四年六月号）

祝・叙勲

（平成二十四年十一月三日）

☆瑞宝双光章

教育功勞

阿部

晋殿

松山市下伊台町 五二六一―一五

（昭和四十年卒）

埋骨注心血地



大野 憲 (昭一八愛師專)

平成二十四年(二〇一二)三月十七日、久万高原町と松山市を結ぶ国道三三三号三坂道路(延長七・六キロ)が全線開通した。

上浮穴地方の命の絆として、郡民挙つて早期開通を訴え、待ち望んだ悲願の三坂道路。

羊腸たる急カーブを避け、走行時間も短縮、地域間の往来や文化の交流、更には地場産業の振興、救急体制の強化等そのメリットは計り知れない。

未来に向け、この道路をどう活かして行くか、不撓不屈道路整備を訴え続けた先人の思いを受け、住民による新しい取り組みも始まっている。

三坂越えすりゃ 雪降りかかる
もどりや妻子が 泣きかかる
むごいもんぞや 明神馬子は
三坂夜出て 夜もどる
馬よ歩けよ くつ買うてはかそ
もどりやとうきび 煮て食わそ

土佐街道最大の難所といわれた三坂峠の往時を彷彿とさせる三坂馬子唄の一節である。当時を偲べば今昔の感にたえない。

明治維新が明け、文明開化の黎明を迎えると、地域の発展には道路の整備が不可欠だという声が出始め、上浮穴郡でも道路整備を望む声が澎湃として湧き上がった。

折しも、上浮穴郡郡長として着任した松垣伸はその中心となり、郡政に参与していた久万林業の創始者井部榮範や前身庄屋の県会議員梅木源平をはじめ、山内賤雄、佐伯義一郎らと謀って、四国新道の建設に奔走、十数年の歳月をかけて、明治二十五年四国新道の開通をみた。

中国の諺に「井戸の水を飲む時は、井戸を掘った先人の苦勞を思い起こせ」というのがあるが、三坂トンネルの貫通を機に、四国新道の開削に心血を注いだ松垣伸らの苦難の軌跡を改めて辿ってみるのも有益ではないかと思うのである。

凡そ、歴史を緋けば、一世を革新したり、一地域社会を再建させた跡をみると、常に卓越した先覚者が英知と達識を以て情熱的に呼

びかけ、それに応えて大衆がよく協力している。松垣伸はまさしくそうした先覚者であった。

明治の黎明期に松垣伸のような少壮有為の士を郡長として迎え、その献身的な指導を受け得たことは上浮穴郡としても、この上なく幸運であった。

彼が上浮穴郡郡長に着任したのは、明治十四年九月十四日三十二歳であった。四国新道の開削に当っては、前述のように、彼は、地域の発展のためには、道路の整備が不可欠と郡民の先頭に立ち、寝食を忘れて奔走したが、知事を説いても、山地に道路をつくることの困難と莫大な費用を要し収支償わないことを以て容易に納得せず、そこで、自ら峯を攀じ谷を渡って実測し、その頃初めて出来たダイナマイトの効力を試すなどして、遂に知事を納得させ、更に高知県知事をも説き伏せ、両県とも四国新道開削の議案は県議會を通過し、遂に明治十九年起工の運びに漕ぎ着けたのであった。

さて、工事ともなると、これまた大変であった。当時は未だブルドーザーも無く、すべて農具に頼るほかなく、また人夫の確保も容易ではなかった。沿線の村々には一

戸当り百人余の出し夫を割り付け、いわゆる人海戦術まがいの徴用であった。

然も、この大衆を打つて一丸としたのは、郡長自作の「新道開さくかぞえ歌」であった。意識統一と士気高揚を狙った大衆統御の秘策である。郡長の面目躍如たるものがある。

新道開さくかぞえ歌

一ツトセ 人の知りたる伊予土佐の通路は山また山ばかりソレ開さくセー
二ツトセ ふだんの運輸も戦時にも 通行便利が第一よ ソレ国のためー
三ツトセ 道は馬車道四間幅一間 三寸勾配に ヨク測量セー
四ツトセ よもやだのみじや出来はせぬ 前代未聞大事業 ミナ熱心セー
五ツトセ 岩も掘割れ山もぬけ往來に不自由のないように ソレ破裂薬
六ツトセ むつかしうても三年の月日の うちには仕上げたい
コノ開さくを
七ツトセ 難所の工事は久万 三坂 黒岩 黒川 大身槍 ソレ突き通セー

八ツトセ 約束極めし村々の 出し夫は一戸に百人余 ソレ精を出セー
九ツトセ 工事のつもりは三十万 官金ばかりを当にせず ミナ負担せよ
十ツトセ 通りぞめには賑やかに 開道式をばして見たい、土予国境で

彼は道路の外にも四国横断鉄道の必要性を訴えたり、植林や三極の栽培を奨めるなど、上浮穴郡の地場産業の振興に格別の思いをかけて奔走した。

中でも、旧藩時代に天災飢饉に備えて備蓄保管してきた非常米を村々に分配しようとして息巻く地元を説得して、凶荒予備組合を組織させ、それが後日教育義会の基金となり、石鉄寮(郡出身者専用の学生寮)や志ある学生の奨学金ともなったのである。

ところで、話は飛躍するが、彼の郡長としての諸事業もさることながら、特に感動を催し親近感さえ覚えるのは、彼が行政マンの出でなく、実は教育者だった所為だろうか。

「上浮穴史談第二号」の外祖父松垣伸の事ども「藤井周一」に

よれば、彼は松山藩士野田家の次男として、嘉永三年九月十八日に誕生したが、松垣家の養子となった。野田家は元来学者の家柄で、身分は小姓であったが、禄は少なく貧しかった。

慶応二年十七歳の時、藩校の明教館に入学、漢学の素養を積みつつ武芸にも励み、同年中段の免許を得「槍の小天狗」と称せられたが、明治二年二十歳で助教を命ぜられ教授の列に加わった。

同五年には学制が頒布され、松山にも初めて小学校が五校設置されたが、二十三歳でその小学校の校長に任命された。新教育発足早々の啓蒙学校の経営に携わっていたが、東京の新教育の様子を見学したいとの思いから、東京師範学校付属小学校を参観、寺子屋教育とは全く異なる一斉授業に目を開かれ、帰郷後直ちに一斉授業を採用し、新教育法を自ら実施して



範を示した。

ところが、県下の教員が日々つめかけ、参観者の応接に耐えられない有様であった。祖父の生涯でこの時程うれしかったことはなかったとのこと。

かくて、明治八年には学区取締(後年の視学)を命ぜられたが、翌九年松山に師範学校が開設されるや、その創立事務長を命ぜられて、創立の事務を司り、更にまた師範学校の幹事に任命された。

ところで、同十一年十二月郡区町村編制法が公布せられ、郡政が敷かれると、異例の抜擢で、下浮穴郡郡長に任命され、翌年伊予郡郡長をも兼務することとなった。かくして、明治十四年九月十四日には、彼が死後までも、その土地のために尽したいと思つた上浮穴郡の郡長に転任したのであるが、明治二十七年七月に休職を命ぜられるまで十四年間に在職したのであった。

病(食道癌)で寝込んでいた或る日、祖父は私を枕元に呼んで、自分は上浮穴郡郡長として赴任して以来、上浮穴郡に対する愛着が日毎に増し、力の限り尽したが、遂に鉄道の開通を見て死ぬることが出来なかつた。そのみならず、

未だこうもしたいああもしたいということがたくさんある。

死んでも、私事には少しも心残りはないが、骨を久万の地に留めて、生前成し得なかつた事が成し遂げられる日を見たい。わたしが死んだら、久万の真光寺の桜の大木の下、お前の家の墓側に葬ってくれ。墓標に戒名はいらん。松垣伸とすればよいが、自分の志を表わす文句を何か書いてくれてもよいとのことであつたから、一、二、三の文句を考えて見せると、今の墓標の「埋骨注心血地」が気に入つたのであつた。

(送り仮名・返り点は筆者)(文中敬称略)

790-0913 松山市畑寺 三一六一四六



放送大学四月入学 生募集のお知らせ

放送大学では、平成二十五年四月入学生を募集中です。

放送大学は、テレビなどの放送を利用して自宅で学べる通信制の大学です。

放送大学では、心理学・福祉・文学など、幅広い分野を学べますが、同窓会員特に現職の方々は、次に掲げる教育関係の免許資格取得などができます。

- 放送大学の大学院を利用して、専修免許状の取得が可能です。
- 放送大学の科目を利用して、特別支援学校教諭免許状の取得が可能です。

○ 放送大学の科目を利用して、司書教諭資格の取得が可能です。

○ 放送大学の講習を受講して、教員免許更新が可能です。

資料を無料でさし上げておきます。お気軽に、愛媛学習センターにご請求下さい。



放送大学

知識が人生を変えていく
一科目からでも学べます

平成 25 年度 4 月入学生募集中!
(平成 25 年 2 月 28 日まで)

愛媛学習センター
(愛媛大学内)

TEL 089-923-8544





今、教育に思うこと

戦時中の通知票に思う



小野植元幸
(昭二九卒)

私は、昭和十五年大瀬尋常小学校入学。通知票の表紙に校訓「私共ハ教育勅諭ノ聖意ヲ奉体シ良キ日本人タランコトヲ誓ヒマス」と明記。教科「修身。国語（讀方、綴方、書方）三分野。それぞれ評価。算術。国史。地理。理科。図画。唱歌。体操。裁縫。手工。農業。家事。十五教科。一年生の評価は、修身。国語の三分野。算術。図画。唱歌。体操。」の八教科の評価は、それぞれ十満点。八教科の平均点その上に「操行」があり評価「優良下」。そして、学級平均があり、どのようにして、各教科を、特に図画、唱歌は点数をだしたのか不思議に思う。学校より、家庭への希望として、保護者へお願い。「家庭に於ける児童心得」を明記。早寝、早起。毎朝祖先ノ靈ヲ拝スル。長上ニ挨拶。手伝。復習。人

ノ悪シキ噂ヲセヌ。昭和十六年（二年生）になると、戦時体制のきざしか、国語は、三分野を一つにし、習字が教科に独立。武道。商業が教科となり「操行」は消えた。通知票の見方「国民学校教育目的」皇国の道に則りて初等普通教育を施し国民の基礎的練成をなすを以て目的とす。「二年生より「児童は、天皇陛下の大切な赤子であります。お預り申上げて育ててある」という信念を持って下さい。」昭和二十年まで記入されていたが、終戦になり「児童は天皇陛下の大切な赤子。」は消え、教科も国史地理。武道が消えた。国民学校は、昭和二十一年まで続き、教育改革により消え、昭和二十二年より「小学校」「中学校」と名称変更となる。評価「優良下」は昭和二十一年度まで続いたが、新制中学二年（昭和二十二年）より「上々。上。中。中下。下」と五段階。通知票も、中学二、三年通知簿となった。昭和十七年度より、終戦になるまでは、児童も戦争の影響を受け、五、六年は二時間授業で、出征兵士の家に勤労奉仕で食糧生産にか

りだされ、「兵隊さんのため。」と訓育された。食糧増産する農家でさえ、全部供出し、栄養失調で、餓死する人もいた。街の人々は食べ物がなく、農村へ大切にしていた衣類と交換して子供達を育てていた。教育どころではなく、食料増産に励み、天皇陛下のため、国のためと子供心に「勝つまでは、何もほしがりません。」と努力した。戦時中は「人は戦力」「生めよ、増やせよ。」と奨励され、各家庭子供がいらない家はいないほど子供が多く、十二人は、「鉛筆一ダース」にたとえて、国から表彰を受けた人もいた。ないないづくしの生活で、共に協力助け合い連携して子育てをされ、「子供は宝」で、非行、いじめなど聞くこともなかった。飽食の時代となり、少子化となり学校ではいじめ、非行等が多発し現場の先生方は、「教育危機」と思うほど多事多難な時代だが、健康に留意して校長に信頼され、職場の先生方に敬愛され、保護者に尊敬され、児童生徒に親しまれる教師に努力されることを期待したい。戦時中の学校教育を受けた者として……。



愛媛大学教育学部と教育実践現場と 連携・交流を深めるために学部は

愛媛大学教育学部は、地域に立脚する大学という立場で、教育実践現場と連携・交流し、よりよい双方向的な関係を創造していくことで、地域の教育改善・充実に資することを目指しています。この考えに基づいて、学部は、地域の教育研究・教育実践の充実・発展、教員養成・教育研究の充実のために、相互に連携協力する旨の覚書きを、松山市教育委員会、今治市教育委員会、愛媛県教育委員会と取り交わしております。その趣旨は、当然、愛媛大学教育学部が立脚する地域全体を視野に入れたものです。『愛媛大学教育学部「学校教育支援のための教員リスト」』は、こういった地域との連携協力の事業一環として、作成されています。本リストには、愛媛大学教育学部教員が、その専門性を生かしながら、教育実践の場にどのようなことができるかという情報が、一覧の形で示されています。それには、

1. 教育行政及び学校運営に関するもの（五件）
2. 教職員の資質等に関するもの（七件）
3. 学習指導・教科教育等に関するもの（五十五件）
4. 専門的内容等に関するもの（六十八件）
5. 生徒・生活指導に関するもの（八件）
6. 「生きる力」等に関するもの（七件）
7. 特別支援教育に関するもの（二十件）
8. 現代的な教育課程に関するもの（九件）
9. その他に関するもの（八件）

（中央教育委員審議会・教育課程審議会、施設、設備、安全教育等）

グアテマラ通信 (3)

シニア海外ボランティア：杉山 允宏 vividmasa@live.jp

No.24 任国外旅行 (メキシコ) (2012/ 5/30)

メキシコシティには行かずCanCun市に飛びそこからバスで3.5時間のChizenItzaに行った。ピラミッドの角度が10度?位ずらしてあり、秋分・春分の日にはピラミッドの稜線に羽根を持つ蛇の神が舞い降りるというエルカステイヨは天文学幾何学が駆使された造られた神殿 (世界遺産)。望は春分の日も見に行きました。春分の方が光が強くて見事に晴れていて堪能したそうです。



↓ ソンブレロを冠ってマリンバを演奏しました。



↑ CanCunのホテルの前、従業員が砂から這い出てくるウミガメを集め海に帰してやった。本来、夜、卵から孵って海際まで歩いて帰るのに。昼間は鳥に狙われて食べられます。

↑ 木の取っ手でのむビヤグラス

No.25 任国外旅行 (コスタリカ) (2012/ 6/10)

↓ Arenal 火山と麓の Tabacon タバコン温泉



↓ Sarchi サルチー市の Carreta 荷車で収穫物を運びます。





↑これは温泉の川です。40度C前後の所もあり、かなり温かく、プールまで来るとぬるま湯です。



↑国立公園イラス火山 3432 m 火口は右の海、中央の第2、左の第3。



↑エビの養殖



↑日光浴と遊泳



みなさん、グアテマラ通信を終了いたします。2年間、勝手に送らせていただきました。9月30日にJICAシニア海外ボランティア活動を終了いたします。グアテマラを10月1日に発ち10月3日に成田に到着、3日間帰国研修を終えて松山には6日に帰宅予定です。その後は自由の身になります。

日本伝統柔道がどれだけ伝えられたかは今後のグアテマラの子供たちが伝えてくれるでしょう。皆さんからの温かい激励に感謝いたします。 杉山 允宏

第十三回愛媛大学教育学部 同窓会懇親会

報告

同窓会理事

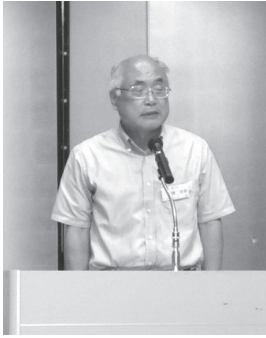
替地 和人

期日 平成二十四年八月二十五日
(土)

場所 県民文化会館「真珠の間」
出席 百三十八名



表示看板



高橋同窓会長挨拶

一 達者がなにより
二年に一度の楽しい会がやってきました。名札の準備をはじめ、朝早くからお世話していただいた附属中学校、小学校、幼稚園、特別支援学校の係の先生方、受付を担当していただいた理事の皆さん。



三浦学部長挨拶

ん。ありがとうございます。今年の会は、いろいろな意味で新しい衣替えの懇親会でした。二十二年に行った懇親会以後新しく教育学部長に就任された「三浦和尚」先生と同窓会長の「高橋治郎」先生の挨拶で会は始まりました。式次第は、

進行 (山本千鶴子氏)

(一) 開会の言葉 (峯本 高義氏)

(二) 黙祷 (友近 温寿氏)

(三) 同窓会長挨拶(高橋 治郎氏)

(四) 祝辞 教育学部長 (三浦 和尚氏)

(五) 来賓紹介 (村上 朋子氏)



友近副会長の
呼びかけで黙祷

(六) 賛助出演
愛媛大学文化系サークル
邦楽部

(七) 開宴乾杯 (満田 泰三氏)

(八) 閉会の言葉 (村上 朋子氏)
でした。来賓として、金谷茂先生、兵頭寛先生、宮内正義先生、石川廣美先生、渡川晴行先生、奥定一孝先生、菊川國夫先生、村上嘉一先生にご参加いただきました。賛助出演の邦楽部演奏がすばらしく邦楽で聞く愛媛大学の学歌に涙がこぼれそうでした。



懇親会場風景

二 若い日々がよみがえって

同窓会の醍醐味は、若き青春の日々に思いをはせ、人生を顧みることです。邦楽部の現役の皆さんの深刺とした若者ぶりにサークル活動に情熱を傾けた往時を思い出しました。毎回いろいろな企画をしてくださる常任幹事の菅田先生のおかげと感謝しています。



受付風景

私は、中学校時代の恩師と新規採用時の先輩に再会しました。すばらしい先達のおかげで教職の道に入りました。恩師や初任者のときの先輩に再会でき、感無量でした。若い頃の思い出が瞬時によみがえってきました。満田先生の「伊予万歳」にも感激しました。衣装も振りも艶やかで、こんな一面もあったのかと感動しました。岡山支部をはじめ県外の支部の活動が活発になってきている報告も聞きました。「絆づくり」を深めていきたいものです。



愛大邦楽部賛助出演

三 また会おう

広島からわざわざ来た同期の「森宗寿博」君は遠来の地からということで壇上で記念品を贈られ感激していました。教育の道を志し、共に学んだ日々はお互いの宝物です。懇親会のあと、大学のキャンパスをいっしょに歩き、彼の所属していた弓道部の弓道場も移転したということで、様子が変わってきたテニスコート周辺を歩きながら昔話に花を咲かせてのち、再会を約束して別れました。

今は秋の学生祭に合わせて開かれる全学部の校友会主催の「ホームカミングデー」など母校を訪れる機会が増えていきます。ホームカミングデーでは、応援団や硬式庭球部の応援歌の披露が現役とOBあいまってありました。同窓会員の皆様のより多くの同窓会行事への参加をお願いします。次回二十六年の会にもより多くの会員が参加されることを祈念して報告いたします。



名司会者山本副会長

懇親会風景



満田理事の乾杯の音頭



会は始まった



来賓の先生方



和気藹々の懇親会



お久しぶり



話は盛り上がる



元気かな旧交温まる



笑顔笑顔で盛り上がる



最長老に感謝記念品贈呈



お礼の挨拶



最遠地参加に感謝記念品贈呈



岡山支部へ感謝記念品贈呈



満田理事の伊予万歳



ハーモニカ演奏



のど自慢



盛り上がる会場



村上副会長の見事な閉会挨拶



万歳三唱で閉会



笑顔で再会を誓い合う出口



教育学研究科学生がEASE学会で最優秀賞を受賞しました

平成24年8月19日（日）から25日（土）にかけて中国北京の北京師範大学で開催されたEast-Asian Association for Science Education Summer Camp 2012にて、大学院教育学研究科教科教育専攻理科教育専修のApril Daphne Floresca Hiwatig（エイプリル・ダフネ・フロレスカ・ヒワティグ）さんが、最優秀賞を受賞しました。

このSummer Campは、East-Asian Association for Science Educationが、2年に1度、環太平洋諸国から代表となる大学生を選出し、科学教育研究者と最新の研究動向について情報交換を行うと共に、グループに分かれてオリジナルな研究計画を構築し、競うものです。今回は、日本、韓国、中国、台湾、香港から科学教育を専攻する27名の大学院生（博士課程学生25名、修士課程学生2名）と10名の科学教育研究者が参加しました。



表彰状（最優秀賞）

Aprilさんは「A Comparative Study of Middle School Curriculum Standards and Textbooks on Nature of Science (NOS) in East Asia」と題した研究計画を考えて発表し、最優秀賞を受賞しました。この賞は、最終日に行われる研究計画発表を審査し、最も優れた研究計画グループに贈られる賞です。もちろん日本から参加した大学院生で唯一の受賞です。審査委員より、その緻密な計画と、将来の発展性が高く評価されました。

教育学研究科学生が音楽コンクールで入賞しました

平成24年10月7日に大阪市で行われた、第13回大阪国際音楽コンクール（声楽部門 Age-u オペラコース）において、教育学研究科音楽教育専修の2回生、張卓さんが第3位に入賞しました。

大阪国際音楽振興会主催（外務省・文化庁、アジア・ヨーロッパ諸国の後援）による国際規模のこのコンクールは、文化・芸術を創造し、学び、それを基とした国際交流を深め、世界諸国文化の互いの多様性を認めること、争いの無い世界平和へと貢献すること、全世界へ羽ばたく数多くの若い音楽家を見出し送り出すことを目的として行われています。このコンクールはピアノ・声楽・弦楽器・管楽器など12部門があり、今回張卓さんがオペラコースにおいて第3位入賞となりました。

【受賞者の張さんのコメント】

私は、声楽の指導者をめざしています。そのための表現力とともに、教育学研究科において、音楽教育の分野から「気導音と骨導音の相違」に着目した研究を行っています。音声に関する理論研究と音楽表現力向上の両面から研究を行い、この度、大阪国際音楽コンクールに参加しました。各国の審査員の方々からも評価していただき、嬉しい気持ちに満ちています。大学院修了までの半年間の滞在になりますが、一生懸命に頑張りたいと思います。愛媛の皆さん、愛媛大学の皆さんに心から感謝しています。



表彰状



受賞者 張 卓さん

教育学部同窓生 フリーアナウンサーの合田みゆきさんによる 「魅力的な話し方講座」を開催しました

この講座は、同窓生を中心に多方面から学生に対する支援をお願いする『教育学部サポーター制度』の取り組みとして平成21年度からスタートし、今回で10回目になります。

合田さんは、平成22年度に引き続き3回目の登場です。「話のプロ」の立場から、話し方、表情、仕草などを含めたコミュニケーションスキルについて、実践練習を交えて、普段の生活から就職活動まで役立つ内容でお話いただきました。

講義は、まず「笑顔の練習」から始まり、次に「発声練習」を行いました。初めは声が出なかった学生も、練習を重ねるごとに大きくハキハキとした声が出せるようになりました。

続いて、「面接」を乗り切るための実践練習を行いました。練習希望の学生2人に前に出てきてもらい、入室の仕方、お辞儀の仕方、着席の仕方などを合田さんが丁寧に指導された後、実際に「疑似面接」を体験してもらいました。その様子を合田さんがビデオ撮影し、すぐに再生して鑑賞しました。まず学生本人に自分のビデオを見た感想を述べてもらい、その後に合田さんからコメントがありました。学生達は自分の表情や声、歩き方のくせなど、修正すべき点に気がついたようです。

次に、コミュニケーションワークとして、2人1組になり、お互いの共通点を見つける練習、聞き上手になるために相手の話を聞く練習、話を弾ませる話し方の練習などを行いました。コミュニケーションをうまく取るコツは「相手に興味を持つ」「共通点を見つける」ことで、思ったより簡単であることなどを実践練習を通して実感しました。

また、「他己分析」として相手の良い所を見つけて話をするフリートークを学生2人に行ってもらい、ビデオ撮影をして鑑賞しました。話し方のくせや立ち姿などについて合田さんからコメントがあり、自宅でも鏡やビデオ撮影などで自己チェックしておくのと良いことなどのアドバイスがありました。

最後に、上司とのコミュニケーションの取り方、社会人として必要なコミュニケーション能力、教育実習に行った時の子どもとのコミュニケーションの取り方、笑顔の使い方などの質問に対して、自己の体験談などを交えながら、丁寧な回答と細かいアドバイスがありました。

今回は1回生から4回生の約80人の学生が参加し、コミュニケーション能力の必要性について、実践を交えながら楽しく学べた講座になりました。



講師の合田みゆきさん



面接指導

同期会



木の中に仏を求めて

昭王会関東支部の

集いから

伊藤 始

(昭二〇卒)

平成二十四年五月末日は、昭王会関東支部の集いだった。懇親会に先立ち、神野君の「木の中に仏を求めて」という話があった。左に概要を紹介したい。

彼は「百聞は一見に如かず」と言いながら、机上に自作の仏像を置いた。約一尺の仏像に台座と光背のついた釈迦如来立像と、聖観



世音菩薩座像、それに小型の香盒仏である。(写真参照)みんなはその精巧さ立派さに目を見張り、感嘆の声を上げた。

制作に当たっては、どの木でも彫れるが木曾ヒノキが最良とのこと。四角な木材に仏像の写真を見ながら、正面、横、後ろから絵をかく。そして、幾種類もの彫刻刀を使って不要部分を削り取っていく。荒彫り、小作り、仕上げの段階をへて約半年、一体の仏像が完成する。

ある仏師の本に、「仏像を彫るといいますが、実は彫るのではなく、木の中におられる仏様を、木屑を払ってお迎えるのです」とあった。本職になると木を見ただけで、お不動さんがおられるかどうか分かるようだ。

私も、本職に近づくよう努力したい、という神野君のことが印象的だった。

仏像制作の動機は、学徒出陣のテレビを見たときだ。ある学生が「心の支えがほしい。仏像写真をもらえませんか」と、写真家のところへ来たという。この場面を見たとき、自分も仕事が行詰ったり迷ったとき、心の支えになるもの

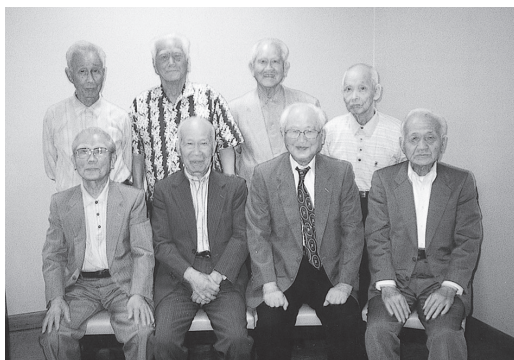
があれば、と思った。そして、たどりついたのが仏像彫刻だった。

図書館で入門書を何冊か見た。そのうちの一冊の著者を、恵比寿(東京都渋谷区)のカルチャーセンターに訪ねたのがはじまりだ。以来十数年、仏像彫刻に魅せられた日々が続いている。

以上だが、神野君の彫刻に対する情熱と真摯な態度に、感銘を受けた一時だった。

その後、懇親会では、一月に亡くなった阿部薫君を偲ぶ話を永井君が、松山支部の状況などを菊池君がし、宴会に移った。

出席者(愛媛) 池川啓司、菊池巧、(関東) 兼頭吉市、神野正光、首藤敏、永井恒男、深見清春、伊藤始(合計八名)



愛媛大学ミュージアムを見学してみませんか Ehime University Museum



ミュージアムというメディアを用いた
愛媛大学の学術研究成果の公開・発信

驚きや発見をもたらす空間は 新しい出会いや感動を生み出す
触れる 感じる 発見する 開かれた体感型ミュージアム
知的刺激に満ちた学びの楽しさがここにある。

The Gallery will stimulate your sense of wonder.

愛媛大学の学術研究活動に本格的な興味・関心を
もっていただくための、楽しくおもしろく学べる大学博物館です。

■利用案内■

入館料	無料	◆その他施設等◆ ミュージアムカフェ コーヒーや、手作りのホットドッグ・カレーライス など、軽いお食事が可能です。 ランチタイムは、ミュージアムカフェの他、大学生協食堂(日曜など休業を除く)なども利用できます。
開館時間	午前10時～午後4時30分(入館は午後4時まで)	
休館日	(1) 火曜日 (2) その他 ・年末年始(12月28日～1月4日) ・大学入試 センター試験日、前期・後期日程試験日 ・メンテナンス休館(2月1日～15日) ・臨時休館	

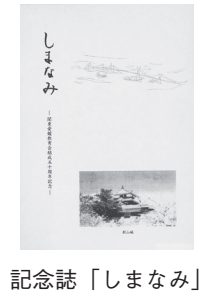


会員の声

しまなみ

— 関東愛媛教育会結成五十周年記念誌の

発行にあたって



記念誌「しまなみ」



武田 敏文
(愛師昭二三卒)

一 関東愛媛教育会の結成

関東愛媛教育会は関東地方に在住している愛媛県出身の教育関係者で作られました。愛媛(県)師範学校・愛媛女子師範学校・愛媛青年師範学校・愛媛大学教育学部卒業生の他に、ほかの大学出身者や会社勤めの方も誘いして、昭和三十五年に結成されました。それから数えて五十周年の記念誌を作りました。

二 今回五十周年記念誌の発行

表紙の「しまなみ」は、越智伊平建設大臣たちの御尽力で開通したしまなみ海道にちなんでこの本

す。本文に当たる講演内容は続編に載せる予定です。

四 われら愛媛のなかま

三章には、三十七名の文集が載っています。

愛媛師範・愛媛女子師範・愛媛青年師範・愛媛大学教育学部卒の方々の題名を載せます。

「体育祭の思い出」石水修二(愛師昭二三卒) 「ツタンカーメンのえんどうに寄せて」井関勝(愛大教昭二七修) 「子どもと本をこよなく愛した渋谷さんの話」伊藤始(愛師昭二〇卒) 「先賢から恩顧を蒙る僥倖に恵まれて」越智猛夫(愛師昭二三卒) 「老いの受容」兼頭(山路)吉市(愛師昭二〇卒)

「私の好きな町」黒滝(林)恒子(愛県師女子部一九卒) 「ポランティアの仕事と趣味」小室(郷田)詢(愛師昭二三卒) 「歩んだ道を想起して」重松樫三 「カタカナの故郷(重松忠夫作曲集)」重松忠夫(愛県師昭一五卒) 「母の日に(二〇一〇年)」重松(小清水)洋子(昭二九修) 「思い出の健康学園」首藤敏(愛師昭二〇卒)

「今治市大島で亡くなった水野海軍大佐」曾我部泰三郎 「京陽小学校のおもいで」高橋立身(愛師昭二三卒) 「文化ともしび賞受賞のサークルで」武田敏文 「同期の絆固く」谷口敬(愛師昭二三卒) 「先輩に支えられて」父田宗孝(愛師昭二三卒) 「こだま三度」徳田

實三郎(愛師昭二三卒) 「青春時代回想(しまなみ海道八景の後記から)」豊嶋睦(愛師昭二三卒)

「継続之力也」日記を書き続けて三〇年」永井恒男(愛師昭二〇卒) 「上をむいてこそ」西川至 「ようやく幼児教育の世界へ」二宮満子(愛大教昭二九卒) 「養生に励む日々」浜田恭昭(愛師昭二三卒) 「同窓会報の発送」伴野(山口)千代(昭三三修) 「思いだすままに」堀内高幸(愛青師昭二五卒) 「音楽教育の半生、音楽教育から社会教育へ」松崎(永木)フミ子(愛県女師昭一一卒) 「松山はええとこぞな」丸木守(愛青師昭二三卒) 「中国、韓国の生活をかえりみながら」水野允陽(愛師昭二三卒) 「関東愛媛教育会の思い出 縁が縁を呼びました」

三瀬(井本)三徳(愛師昭二三卒) 「縁は異なもの」元山(安永)淳子(愛師女子部昭二三卒) 「在家僧侶」山下正洋(愛青師昭二三卒) 「響き合う心・こだまより」山田(久米川)延子(愛大教昭三一修) 「オーストラリアでいろいろ経験した事」山中忠雄(愛青師昭二三卒) 「渡り鳥の心算で」山之内登(愛師昭二三卒)

331-0063 さいたま市西区プラザ 八一四

教育現場等から同窓会へ 支援要請依頼について

教育現場等で、同窓会へ支援のご要望がありましたら、左記のような内容で、同窓会へご連絡下さい。

1. 支援要請のねらい
 2. どのような事を
 3. 何時頃
 4. 何処で
 5. 誰が、どのような組織が
 6. どのような方法で実施する
- その為、同窓会からの支援を要請したい。

要請連絡は、左記の所にメールして頂くか、FAX又はお手紙をお送り下さい。

教育学部同窓会 インターネット 開設しています!

メールアドレスは上記

お問い合わせ、会報への寄稿、住所、勤務先変更などの諸連絡にご利用ください。お待ちしております。

dosokai @ ed.ehime-u.ac.jp



支部だより

南宇和支部 落語文化の普及を図る

南宇和支部長
若田 正
(昭五四卒)

私が、南宇和支部の支部長を引き継いで二年目になる。昨年の四月引き継いだ時、「せっかくなので何かをしたい。会員が集まる機会を持つことによつて、支部会員に少しでも会員意識を持つていただけるのではないか。」と考えた。折しも支部長会の席で、伊予支部に続けとばかりに支部活動の充実が言われ、同窓会事務局菅田先生の話を聞く中で行き着いたのがこの「落語会」の開催である。

まず、へき地校であるが、私の勤務校の愛南町立僧都小学校の全



舞台の右側にスライド設置
(開演まで自動映写)

校児童十六名に「生の落語」に触れさせ、子どもたちの「生きる力」につなげたいと考えた。ちよつと六年生の国語の教科書に、「落語・寿限無」が取り上げられており、新学習指導要領で強調されている日本の伝統や文化の教育の充実にちよつといいと思った。この二年間、人形浄瑠璃鑑賞、バイオリン演奏鑑賞、ピアノ演奏鑑賞、みかん一座コンサート鑑賞等、子どもたちに「本物の文化」に触れさせる機会を作ってきた。また、校地の地域は、各地で問題になっている少子高齢化が進み、「本物の文化」に触れる機会が少なくなっている。そこで、お年寄りにも「本物の文化」「生の落語」に触れていただき、笑って健康に過ごしていただきたいと考えた。

子どものことを一番に考えた企画なので、子どもとお年寄りを対象にした昼の部(第一部)を、最大八十名近く収容できる学校近くの「ふれあい交流館」で開催することに決めた。しかし、同窓会の支部活動として一小学校区のためだけのものでは物足りないと思ひ、退職会員には往復はがきで案内し、現職会員にはメールで案内することに、夜の部(第二部)と同じ場所で開催することにしたのである。



熱演中の菊志ん師匠

ここで、一つの疑問が起こった。南宇和の先生は、退職された方々については不明だが、現職においては、愛大教育学部の卒業生は四分の一くらいしかいない。残りの四分之三くらいは先生方にもぜひ、「生の落語」に触れて欲しいし、退職された方々も笑って健康に過ごして欲しいと考え、日本教育公務員弘済会愛媛支部に協力を求めた。検討していただいた結果、援助していただくことが決まり、実際に動き始めることができたのである。

日時の設定については、カットのおいしい時期に師匠に食して欲しいと考え、様々な行事を検討した結果、十月第四日曜日に実施の方向で進めようとした。しかし、PTAの役員会で事前にこの話をすると、その日には何か子どもに関係する大会があると聞き、前日の二十七日土曜日に家族参観日の一環として実施することにした。日が決まり、「菊志ん師匠」の行動予定や宿泊場所、落語会の内容や準備物等について、師匠とメールと電話でやり取りしながら準備を進めていった。航空券等の手配は同窓会が世話をされるというところで、事務局とのやり取りも何度かあった。落語会が予定されていた十月の私は、出張のため不在がちで、毎週水曜日、木曜日、金曜日といなかった。ちよつと落語会の前日まで、全国連合小学校長会研究大会奈良大会で不在のため、五日前の二十二日に高座のための台や座布団、めくりのための台、そして、マイク等の借用と準備を済ませ、イス並べや緋毛氈かけ等の細部については職員に任せただ。



子どもの質問に答える
菊志ん師匠 (昼の部)



同窓会員の教育長さんも
(夜の部)

これらの準備がたいへんではあったが、子どもたちの喜ぶ姿や地域のお年寄りの笑う姿、初めて落語に触れて次にもまた来たいと多くの方に思っていたく期待等で、楽しみばかりだった。ただ、夜の部で木戸銭(入場料)として五百円いただくことについては、迷った末の決断だったので、ど

のくらいの方が来られるのだろうか、また、高く感じられないだろうかという少しの不安はあった。少しの不安を抱えたまま迎えた当日朝、現場の確認をした後、師匠を迎えに宇和島まで行き、愛南町内で昼食をとった後、「ふれあい交流館」まで案内し、細部について打合せをした。出入りの場所、緞帳の使用、出囃子を切るタイミング等の確認、マイクの調子等の確認をして本番を迎えた。

昼の部では、小学生を含め七十名近くの方が来場され、「初天神」「牛ほめ」の二つの落語を楽しんだ。落語についての基礎知識を織り交ぜながらの話だったので、初めて小学生を含め、初めて生の落語を経験したという来場された大人の四分の三近くの方もすっかり虜になったようだった。最後に質問コーナーを設けていただき、子どもたちからは、「着物の値段はいくらぐらいですか?」「ギャラはどれぐらいですか?」「今日のためにどれぐらい練習したのですか?」とかいった質問が飛び出し、会場を沸かせていた。

夜の部では、六十名近くの方が来場され、中には、昼の部で虜になった小学生三人も親と一緒に来場していた。木戸銭（入場料）として五百円を徴収すると、来場者が少ないのではないかとということをお茶と地域の伝統菓子「まきはんべ」というものを持ち帰っていたので、良かったのではないかなと思っている。さすがに夜の部は、「生の落語」の経験者が半数以上おられ、五百円出してもぜひ落語を楽しみたいと期待して来られたようだった。「祝い瓶」と「お見立て」の二つの落語だったが、最後に感想を発表するところで、吉原に関する話にもかかわらず、小学生が、「昼の話よりも面白かった。嘘をついてはいけないと思った。」という感想を発表し、会場の笑いを誘った。師匠が会場とのやり取りをするところで、少しは会場の雰囲気や和らげようと師匠との「掛け合い」に加わることで、私も会場との一体感を味わうことができ、とても楽しかった。

最後に、アンケートに「次回落語会があればまた来る。」と、全員が答えてくれたことが何より力強かった。そして、それが、来年も実施しようという思いの原動力になっている。願わくば、来年の落語会にもっとたくさんさんの現職の先生方の来場を期待したい。



夜の部の来場者



夜の部の小学生3人



車いすの子どもも（昼の部）



受付場所風景



大笑いの子どもたち（昼の部）



舞台の右側にスライド設置
（開演まで自動映写）



熱演中の菊志ん師匠



熱演中の菊志ん師匠
（昼の部）

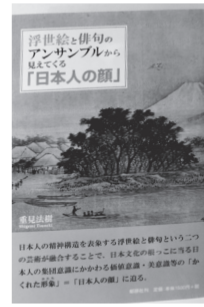


熱演中の菊志ん師匠



質問に答える菊志ん師匠（昼の部）

寄 贈 図 書



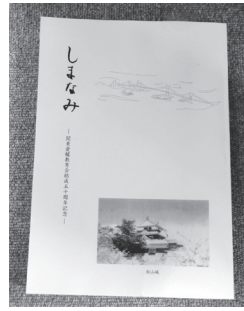
浮世絵と俳句のアンサンブルから
見えてくる「日本人の顔」

寄贈者・著者 重見 法樹

発行者 佐藤 聡

発行者 (株) 郁朋社

判型 B6サイズ



「しまなみ」
関東愛媛教育会結成五十周年記念

寄贈者・編集責任者 武田 敏文

発行 曾我部 泰三郎

佐藤 聡

中田 典昭

発行所 (株) セイコー社
判型 B5サイズ



平成24・6～24・12

会報送料・寄付者名

上柴土寺城西高後石江本藤久森戒佐岡大松首石菅池川加森島千村毛井村岡齋
甲中居嶋戸川野藤黒戸宮田久保田下能伯崎屋岡藤川原川中藤岡津葉上利門上部藤
胤雪泰幸裕保莞和功昌タキ百泰申カ萬 忠 廣 敏 淳 成 俊 通 城 ヨシ 律 義 勝 克 俊
一子正子子徳爾市宣宏子子合子子治脩ミ郎通信敏美保幸一子一幸圓子子男利己彦

井後尾畦藤山山河森近大大村西小榊熊成島石山井往西岩福井三曾高中田松渡
上藤崎地田崎内野川藤西西上田鳥田野宮村村田上見本井田伊原部橋島中永邊
勝 繁 昭 道 志 津 成 哲 宮 敏 是 雅 忠 史 唯 典 俊 ミ 利 さ 謙 正 サ 磯 孝 俊 久 久 峰 富
美 傳 美 饒 代 子 江 江 子 郎 子 秀 善 子 武 明 郎 志 子 夫 彦 蔵 浩 子 教 男 枝 正 雄 一
(惇子)

佐門宮須高種花小石村真原伊藤大大齋藤泉葛曾濱戒杉戸村乃松黒伊真山景
々々之領内橋植房林川井鍋藤井石上上籐原原部田田本田上村本住上鍋内山
信映理勝綾和千士光芳千和益勝保孝月光光豊清利利 之直
之章郎彦子夫香翔来郎功延生始信枝子男雄壽恵匡敏子一恵秋美恵夫元恵巍夫哉

原稿募集

—次号 第一一六号—

短くても結構です。多くの方々のお気軽なご寄稿をお待ちしております。

○『会員の声』—「今、教育に思うこと」について、ふるってご投稿下さい。

★ 同期会や支部同窓会などの集いや活動について

★ 恩師・先輩・同僚の訪問や思い出について

★ 職場の近況や所感や活動について

★ 文芸(随想・俳句・川柳・短歌・詩・絵手紙等)について

★ 会員便り
1 旅行記 4 この頃思うこと
2 季節便り 5 忘れ得ぬ人など
3 教育雑感

※ 投稿が多数になった場合には、編集委員会で選ばせていただきますので、ご了承ください。

◇ 原稿メ切 四月三十日
発行 七月一日 予定

★ 依頼者以外は千二百字厳守
字数
四〇〇字詰原稿用紙の一行を十五字にして書いて下さい。

★ 写真
筆者の顔写真を添付してください。顔写真以外で内容に関連した写真もあれば送ってください。

会報の送料納付

について

平成二十四年七月号でもお知らせしましたように、会報の個人宛発送は、送料を各自で負担していただくことになっております。

出費多端の折柄恐縮ですが、未納の方は、左記要領で納付方お願い申し上げます。

記

① 一年間五〇〇円で、二年間分ずつ収めるようになっていきます。

② 二年ごとの更新は、煩さなので、何年間かを、まとめられる方もあります。

納付期限 毎年三月三十日までとし、二年毎に更新する。

送金方法 郵便為替・現金書留・郵便振替で

振替口座番号
〇一六四〇一七二七五四

送り先 〇七九〇一八五七七
松山市文京町三
愛媛大学教育学部同窓会

領収書は、振替用紙をもって、かえさせていただきます。

敬弔

(物故会員)

死亡年月日	氏名	生年月日	住所	備考
22・12・12	成川 澄子 (昭12・本科二)	24・8・29	越智 慎一郎 (昭28・愛大)	24・11・7 八木 恵美子 (昭18・本科)
23・1・18	阿部 薫 (昭20・本科)	24・9・2	牧野 元太郎 (昭26・本科)	24・11・8 中須賀 正 (昭12・本科二)
24・5・14	上甲 吉雄 (昭20・本科)	24・9・5	久保 正憲 (昭30・愛大)	24・11・8 高瀬 敏明 (昭22・本科)
24・5・17	橋村 誠 (昭50・愛大)	24・9・15	和田 忠文 (昭27・愛大)	24・11・15 藤岡 輝男 (昭14・本科二)
24・5・20	薬師寺 輝 (昭11・県師専攻科)	24・9・17	高木 要海 (昭27・愛大)	24・11・17 渡部 登 (昭10・本科二)
24・5・25	古茂田 規恭 (昭15・本科二)	24・9・18	北須賀 隆雄 (昭22・青師)	24・11・18 西岡 博之 (平1・愛大)
24・5・27	岡田 時晴 (昭18・青師)	24・9・24	松田 一正 (昭30・愛大)	24・11・23 萬井 貞夫 (昭29・愛大)
24・6・1	山口 健次 (昭20・本科)	24・9・26	金繁 定恵 (昭21・愛師女子)	24・12・3 小池 平八郎 (昭15・本科二)
24・6・2	加地 悦夫 (昭20・青師)	24・10・1	平尾 功進 (昭36・愛大)	24・3・24 北岡 清治郎 (昭18・教養)は、
24・6・2	松平 俊一 (昭29・愛大)	24・10・3	熊本 幸久 (昭25・本科)	24・3・24 北岡 精次郎 (昭18・青師)と、
24・6・8	堀本 坂男 (昭19・本科)	24・10・3	高橋 詮 (昭15・本科二)	訂正し、謹んでお詫び致します。
24・6・24	岡田 律 (昭17・本科二)	24・10・5	船田 政興 (昭10・本科二)	
24・7・9	高智 文夫 (昭30・愛大)	24・10・11	橘 惟材 (昭10・本科二)	24・5・11 村上 愛子 (昭19・愛師女子)の方は
24・7・18	大政 英雄 (昭19・本科)	24・10・12	池上 馨 (昭18・本科二)	ご健在でして、他大学卒業の同
24・7・18	竹村 忠雄 (昭15・本科二)	24・10・12	宮内 久徳 (昭20・青師)	姓同名の方とを取り違い記載致
24・7・26	竹内 茂之助 (昭30・愛大)	24・10・19	池田 陽一郎 (昭22・専攻)	しましたこと、謹んでお詫びし
24・8・2	大内 慶和 (昭41・愛大)	24・10・25	中井 專義 (昭24・本科)	訂正させていただきます。
24・8・14	池内 イワノ (大12・女子師)	24・10・26	宮下 正志 (昭58・愛大)	



「第3回愛媛大学ホームカミングデー」を開催しました

【平成24年11月10日】

ホームカミングデーは、卒業生の皆様や退職された教職員の方々を大学にお招きし、大学の教育・研究等の現状などを紹介するとともに、在学生や教職員との交流を行い、また大学の施設や学生祭を見学していただき、母校へのご理解を深めていただくことを目的としています。

第3回目を迎える今回は、平成24年11月10日（土）に城北キャンパスで開催し、卒業生、本学学生及び教職員あわせて、約200人が参加しました。記念式典に先立ち、同時開催イベントとして、農学部樽味キャンパスの植物工場見学や就職関連イベント「愛媛大学職員の仕事を知らう」などを実施し、多くの方に参加いただきました。

記念式典では、学歌斉唱、大学紹介映像の放映のあと、柳澤康信学長から「愛媛大学の地域連携・大学連携・国際連携」と題し、本学の現状説明がありました。

そして、農学部OBで歌手のえひめ憲一さんによる歌の披露があり、大学院農学研究科の卒業生でロンドンオリンピックボート代表の武田大作さんによる特別講演、大学院連合農学研究科卒業生で校友会ベトナム支部代表のLE THI HAILE（レ ティ ハイレ）さんによる挨拶に続き、本学応援団の在学生及び卒業生による応援団演舞が行われました。



植物工場見学の様子



「愛媛大学職員の仕事を知らう」の様子



学歌斉唱（合唱団）



柳澤康信学長挨拶



えひめ憲一さん



武田大作さん



LE THI HAILEさんと
愛媛大学校友会森本悳会長



応援団による応援団演舞



懇親会の様子
(柳澤康信学長と司会の合田みゆきさん)



懇親会の様子
(庭球部による応援歌披露)